

# 観光経営学部観光経営学科の特色と

## カリキュラムポリシー

### 1. 学部・学科の特色

観光経営学部観光経営学科では、本学の教育理念のもと、グローバル（グローバル＋ローカル）な人材の育成を意識したカリキュラムをはじめとする教育体制をとっている。主たる特色を挙げると下記の通りである。

- ①バリエーションに富んだ多数の観光関連科目を配置している。
- ②経営・マーケティング・会計科目等多数を必修科目としており、経営大学の強みを生かしたカリキュラム編成

#### ③語学力（英語）の徹底養成

1年次から4年次まで語学を必修とし、時間を多く割き、ツールとしての英語を実践的に学ぶ。観光英語にも重点を置き、目標の一つとして観光英語検定にも取り組む。英語海外実習も重要視する。

#### ④フィールドワークや実務の重視

座学中心では観光という専門領域から実態を把握できず、又、実際、目や身体で実感することが重要である。実習やゼミ活動、専門科目においても積極的に学外に出ることを推進する。

#### ⑤ホスピタリティマインドの実践教育

1年次における「ビジネスマナーとホスピタリティ」においてその基礎を徹底する。また、「基礎ゼミナール」、「キャリアデザイン」等においても教育していく。なお、授業だけでなく、ごく自然にマナーや挨拶、おもてなしの心が身につくよう学部の特長として確立していく。

#### ⑥地元・地域に密着したテーマの追求

県や地域の特徴や強みを活かした教育テーマを設定し、地域社会の発展に寄与する。例えば眠った観光資源を掘り起こし、地域の活性化に貢献する。また、本県の主力産業である農業を観光という視点から捉えた領域（コース）は本県の特徴を表し本学の学びの特徴でもある。

#### ⑦大学と地域・企業（業界）との協力体制の確立

宿泊産業をはじめスキー場等のレジャー産業施設、観光農園、農家、流通業、食品加工など産学の連携を深めていく。

#### ⑧国家資格・検定等資格指導の徹底指導

それぞれの進路、自己実現のために積極的にサポートする。英語関連資格はもとより国内

旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、通訳案内士（通訳ガイド）、ホテルビジネス検定、販売士、簿記検定、レストランサービス検定などである。

#### ⑨産業界出身の教員の実務的指導

研究者のみならず、実務経験豊富な教員によるバランスのよい教育体制である。

#### ⑩少人数教育による親身な指導

1 学年 60 名の少人数の学部であるが、その分学生に対し、目が行き届き「個別対応」重視の教育による自己実現の確立を目指す。

#### ⑪授業は厳しいが夢と希望を与える教育

個々の個性と成長（実力をつける）を促進させるため教員が一体となった教育体制を堅持していく。

## 2. カリキュラムポリシー

### （1）教育課程編成の基本方針

本学の観光経営学部観光経営学科は1 学部1 学科の編成であり、学年の定員は60人と極めて少ない人数である。しかしながらこの少人数を強みとし、教育課程の編成を充実させることが可能である。なお、編成の基礎となる概略方針は1 年次より基礎から観光を学び2 年次以降については興味・関心あるいは将来を見据えコース制を敷くが他コースの科目も履修できるようフレキシブルな対応をとる。また、単に教科・研究指導のみならず、1 年次より該当する科目等を通じ、ビジネスパーソンとしての心構えや態度、マナーを身に付けさせる。さらに全員が夢や目標を持ち、意欲や興味をもって学べる課程編成とし、しっかりとサポートする。しかし、進級や単位取得には妥協を許さず4 年間しっかりと学ばせる体制を堅持する。

### （2）どのような人材を養成するのか

#### 1) 共通する人物像

①地域の観光資源をコーディネートでき、且つ、地域活性化に貢献でき、観光産業及びビジネスの発展に寄与できる人材を育成する。

②幅広い教養と観光の専門的知識はもとより、マネジメント能力をも兼ね備えた、広く産業に寄与できる人材を育成する。

③新潟県を中心として国内外で活躍できるグローバル（グローバル＋ローカル）な人材を育成する。

#### 2) それぞれの活躍の場における人材養成

#### レジャー・まちづくり コース

地域振興と、まちづくりのリーダーを養成

それぞれの地域には、自然や景観、伝統、文化などの観光資源があり、これらに付加価値をつけ、観光客の欲求とニーズに応えることが大切である。また、地域の環境を護り自然の魅力を活かす考え方を学ぶ必要がある。

なお、スキー場やゴルフ場、マリンスポーツなどのアウトドアスポーツそしてレジャー施設あるいはリゾート施設などにおいてはマーケティングあるいはマネジメント能力が求められており、さらには温泉、産業観光、名勝などの観光資源はどうあるべきか。近年において注目されているクリーンな自然エネルギーと環境についても学びを広げ、単に理論に留まらず、フィールドワークや実習を通し、まちづくりなどの地域振興に役立つリーダーたる人材を育成する。

活躍の場としては主として地方公務員、国家公務員、レジャー・スポーツ関連産業、観光協会、商工会議所、商工会、NPO、観光物産館、観光農園、アウトドアメーカー、リゾート開発企業、不動産業、その他観光関連業界、金融機関、一般企業などいずれの分野にも進出できる。

### アグリ・フードビジネス コース

**農業と食を、観光とマネジメントの視点から追求し新たなビジネスを展開する人材の育成**

農業県であり、越後平野の中央に位置する本学においてはアグリ（農業）やフード（食）のビジネスを学ぶには絶好の好環境にある。今、農業はビジネスや観光として新たな視点から捉えられている。すなわち、第6次産業としての農業であり、食文化そのものである。

また、新しい発想に転換をしていくことは我が国経済においても極めて重要なこととして考えられ、今その人材育成が求められている。

本コースは農産物等の食品の加工や流通、販売そして農村（地域）環境の保全等に着目しつつ、起業（会社づくり）等を踏まえ安全、安心、おいしい、そして、良質な食品とはどういうものかを提案できるエキスパートの人材を育成する。当然ながら経営・ビジネス・観光という視点から授業を展開し、基盤となる実習も重要視する。

活躍の場としては、農業ビジネス法人起業、農業協同組合、観光農園、農業法人、商社、NPO、食品加工会社、食品流通会社、農家民宿、リゾート開発企業、不動産業、農家レストラン、一般企業など、いずれの分野にも進出できる。

### 英語・ツーリズム コース

**語学と観光を学び国際ビジネスパーソンを目指す**

この領域においては主として国際社会で活躍できるビジネスパーソンを目指す。国際的な企業、商社、航空業界、輸送・交通産業等で活かせるマネジメント能力を身に付けると同時に、徹底した英語教育を実践し、進路に応じ、観光英語、実用英検や TOEIC 等の受験、あるいは通訳案内士（ガイド）を目指す。

すなわち語学力を武器に観光関連業界に限らず、商社、貿易会社、銀行、教育などの分野へと多岐にわたって活躍できる。また、旅行業界で活躍したい人には旅行産業の実務に必要な国家資格「国内旅行業務取扱管理者」、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を目指すための科目も用意する。

活躍の場としては主として旅行社、航空及び関連会社（フライトアテンダント、グラウンドスタッフなどの空港スタッフ）、商社、貿易会社、観光ガイド（通訳）、運輸会社、銀行、観光協会、地方自治体職員、国家公務員、レジャー・スポーツ関連施設、観光物産館、リゾート開発企業、不動産業、マスコミ・出版、イベント企画会社、一般企業など、いずれの分野にも進出できる。

### ホテル・ホスピタリティ コース

#### 宿泊産業における高いマネジメント能力をもった人材の育成

主として、ホテル等宿泊産業や外食、ブライダルそして冠婚葬祭産業についても学ぶ。キャリア形成のために企業での実務研修で理論の裏付けを図り、高い知識とスキルを身に付ける。これらの業界において、より付加価値の高いサービスを提供でき、自ら企画・提案できるホスピタリティあふれる中堅業界人・リーダーとしての人材を育成する。

資格・検定ではサービス接客検定やレストランサービス技能検定など関連資格が多くあり、チャレンジしていく。活躍の場としては、主としてホテル、旅館等宿泊産業、レストラン、ブライダル企業、飲食業起業、冠婚葬祭産業、交通関係業界、空港、旅行会社、観光協会、レジャー・スポーツ関連施設、観光物産館、観光農園、リゾート開発企業、不動産業、マスコミ・出版、イベント企画会社、NPO、一般企業、いずれの分野にも進出できる。

観光経営学科2017年度（平成29年度）入学生カリキュラム表

1/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門基礎必修科目	経営学の基礎	2単位	1			必修	24単位
	簿記会計Ⅰ	2単位	1			必修	
	簿記会計Ⅱ	2単位	1			必修	
	ビジネスマナーとホスピタリティ	2単位	1			必修	
	観光経営Ⅰ	2単位	1			必修	
	新潟県の観光	2単位	1			必修	
	観光英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	観光英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅰ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅱ	1単位	1			必修	
	基礎ゼミナールⅠ	2単位	1			必修	
	英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅰ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅱ	1単位	1			必修	
専門基本科目	リーディングⅠ	1単位	1			必修	24単位
	ライティングⅠ	1単位	1			必修	
	観光経営Ⅱ	2単位	2			必修	
	マーケティングの基礎	2単位	2			必修	
	財務諸表の見方・作り方	2単位	2			必修	
	キャリアデザインⅠ	2単位	2			必修	
	観光英語Ⅲ	1単位	2			必修	
	観光英語Ⅳ	1単位	2			必修	
	観光政策論	2単位	2			必修	
	レジャー産業論	2単位	2			必修	
	基礎ゼミナールⅡ	2単位	2			必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅰ	1単位	2			必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅱ	1単位	2			必修	
	オーラルイングリッシュⅠ	1単位	2			必修	
	オーラルイングリッシュⅡ	1単位	2			必修	
英会話Ⅲ	1単位	2			必修		
英会話Ⅳ	1単位	2			必修		
リーディングⅡ	1単位	2			必修		
ライティングⅡ	1単位	2			必修		
区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門応用科目	キャリアデザインⅡ	2単位		3		必修	必修科目10単位を含め12単位以上
	観光英語Ⅴ	1単位		3		必修	
	観光英語Ⅵ	1単位		3		必修	
	観光経営Ⅲ	2単位		3		必修	
	オーラルイングリッシュⅢ	1単位		3		必修	
	オーラルイングリッシュⅣ	1単位		3		必修	
	英会話Ⅴ	1単位		3		必修	
	英会話Ⅵ	1単位		3		必修	
	英語特論Ⅰ	2単位		4		選択	
	英語特論Ⅱ	2単位		4		選択	
	中国語特論	2単位		4		選択	
専門選択科目	韓国語特論	2単位		4		選択	14単位以上
	ロシア語特論	2単位		4		選択	
	地域と観光	2単位	1			選択	
	経営学実地研究 繰り返し履修可能	2単位	1			選択	
	財務会計Ⅰ	2単位	2			選択	
	財務会計Ⅱ	2単位	2			選択	
	ビジネス法Ⅰ	2単位	2			選択	
	ビジネス法Ⅱ	2単位	2			選択	
	海外英語実習	2単位	2			選択	
	販売と経営Ⅰ	2単位	2			選択	
	販売と経営Ⅱ	2単位	2			選択	
	原価計算論Ⅰ	2単位	2			選択	
	原価計算論Ⅱ	2単位	2			選択	
	経営トップセミナー	2単位	2			選択	
	マーケティングⅠ	2単位		3		選択	
	マーケティングⅡ	2単位		3		選択	
	経営戦略論Ⅰ	2単位		3		選択	
	経営戦略論Ⅱ	2単位		3		選択	
	財務管理論Ⅰ	2単位		3		選択	
	財務管理論Ⅱ	2単位		3		選択	
	国際経済論	2単位		3		選択	
	日本経済論	2単位		3		選択	
	経営分析論Ⅰ	2単位		3		選択	
経営分析論Ⅱ	2単位		3		選択		
アジアビジネス論Ⅰ	2単位		3		選択		
アジアビジネス論Ⅱ	2単位		3		選択		
販売と経営Ⅲ	2単位		3		選択		
販売と経営Ⅳ	2単位		3		選択		
インターンシップ	2単位		3		選択		
英文会計	2単位		3		選択		

観光経営学科2017年度（平成29年度）入学生カリキュラム表

2/3

区分	科目名	単位数	配当年次		必修・選択の別	卒業要件
コース専門基本科目	地域とビジネスⅠ	2単位	2		選択	レジャー・まちづくりコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）
	地域とビジネスⅡ	2単位	2		選択	
	まちづくり論	2単位	2		選択	
	まちづくり実習Ⅰ	2単位	2		選択	
	レジャー&アウトドア実習Ⅰ	2単位	2		選択	アグリ・フードビジネスコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）
	農業と観光	2単位	2		選択	
	フードビジネス論	2単位	2		選択	
	アグリ・フード実習Ⅰ	2単位	2		選択	
	農業ビジネス論Ⅰ	2単位	2		選択	英語・ツーリズムコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）
	農業ビジネス論Ⅱ	2単位	2		選択	
	異文化コミュニケーション	2単位	2		選択	
	通訳ガイド入門	2単位	2		選択	
	通訳ガイド演習Ⅰ	2単位	2		選択	英語・ツーリズムコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）
	旅行ビジネス論	2単位	2		選択	
	旅行業法	2単位	2		選択	
	観光産業実習Ⅰ	2単位	2		選択	
旅行実務演習	2単位	2		選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）	
宿泊産業論	2単位	2		選択		
ホテル経営論	2単位	2		選択		
旅行ビジネス論	2単位	2		選択		
セレモニー産業論	2単位	2		選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上（ただし他のコースの4単位を含んでもよい）	
宿泊関連産業実習Ⅰ	2単位	2		選択		
区分	科目名	単位数	配当年次		必修・選択の別	卒業要件
コース専門応用科目	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	レジャー・まちづくりコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上（ただし他のコースの8単位を含んでもよい）
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
	環境と自然エネルギー	2単位		3	選択	
	テーマパークとリゾート	2単位		3	選択	
	地域とイベント	2単位		3	選択	
	スキー産業論	2単位		3	選択	
	観光と開発	2単位		3	選択	
	世界遺産論	2単位		3	選択	
	まちづくり実習Ⅱ	2単位		3	選択	
	観光調査法	2単位		3	選択	
	レジャー&アウトドア実習Ⅱ	2単位		3	選択	アグリ・フードビジネスコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上（ただし他のコースの8単位を含んでもよい）
	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
	アグリビジネス起業論	2単位		3	選択	
	グリーンツーリズム特論	2単位		3	選択	
	農業政策論	2単位		3	選択	
	アグリ・フード実習Ⅱ	2単位		3	選択	
	アグリ・フード実習Ⅲ	2単位		3	選択	
	農業経営論	2単位		3	選択	
	食と文化	2単位		3	選択	
	商品の開発Ⅰ	2単位		3	選択	
	商品の開発Ⅱ	2単位		3	選択	英語・ツーリズムコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上（ただし他のコースの8単位を含んでもよい）
	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
観光地理	2単位		3	選択		
パブリックスピーキングⅠ	2単位		3	選択		
パブリックスピーキングⅡ	2単位		3	選択		
通訳ガイド演習Ⅱ	2単位		3	選択		
通訳ガイド演習Ⅲ	2単位		3	選択		
通訳ガイド総合演習	2単位		3	選択		
ビジネスイングリッシュⅠ	2単位		3	選択		
ビジネスイングリッシュⅡ	2単位		3	選択		
航空ビジネス論	2単位		3	選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上（ただし他のコースの8単位を含んでもよい）	
交通サービス論	2単位		3	選択		
観光産業実習Ⅱ	2単位		3	選択		
専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修		
専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修		
宿泊関連産業実習Ⅱ	2単位		3	選択		
ホスピタリティ産業の人材管理	2単位		3	選択		
民宿・旅館経営論	2単位		3	選択		
着物文化と演習	2単位		3	選択		
プライダル論	2単位		3	選択		
プライダル演習	2単位		3	選択		
秘書概論	2単位		3	選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上（ただし他のコースの8単位を含んでもよい）	
秘書実務	2単位		3	選択		
サービスと接遇	2単位		3	選択		

観光経営学科2017年度（平成29年度）入学生カリキュラム表

3/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
外国語科目	中国語Ⅰ	1単位	2			選択	4単位以上 ※1言語で継続して4単位
	中国語Ⅱ	1単位	2			選択	
	中国語会話Ⅰ	1単位		3		選択	
	中国語会話Ⅱ	1単位		3		選択	
	ロシア語Ⅰ	1単位	2			選択	
	ロシア語Ⅱ	1単位	2			選択	
	ロシア語会話Ⅰ	1単位		3		選択	
	ロシア語会話Ⅱ	1単位		3		選択	
	韓国語Ⅰ	1単位	2			選択	
	韓国語Ⅱ	1単位	2			選択	
	韓国語会話Ⅰ	1単位		3		選択	
	韓国語会話Ⅱ	1単位		3		選択	
教養科目 一般教養科目	法学	2単位	1			選択	必修科目4単位を含め14単位以上
	心理学	2単位	1			選択	
	経済学	2単位	1			選択	
	現代社会と福祉	2単位	1			選択	
	日本国憲法	2単位	1			選択	
	教養の自然科学	2単位	1			選択	
	地理学	2単位	1			選択	
	外国史	2単位	1			選択	
	教養の文章理解Ⅰ	2単位	1			選択	
	教養の文章理解Ⅱ	2単位	1			選択	
	アウトドアスポーツ 繰り返し履修可能	2単位	1			選択	
	スポーツ&レジャー	2単位	1			選択	
	宗教学	2単位	1			選択	
	音楽表現Ⅰ	2単位	1			選択	
	音楽表現Ⅱ	2単位	1			選択	
	現代文化論	2単位	1			選択	
	日本文化史	2単位	1			選択	
	日本史	2単位	1			選択	
	地誌	2単位	1			選択	
	現代社会とスポーツ	2単位	1			選択	
アジア言語入門（中・露・韓）	2単位	1			必修		
現代社会と情報	2単位	1			必修		

卒業要件		} 計124単位以上
専門基礎必修科目	24単位	
専門基本科目	24単位	
専門応用科目	12単位以上	
専門選択科目	14単位以上	
コース専門基本科目	8単位以上	
コース専門応用科目	24単位以上	
外国語科目	4単位以上	
一般教養科目	14単位以上	

観光経営学科2016年度（平成28年度）入学生カリキュラム表

1/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門基礎必修科目	経営学の基礎	2単位	1			必修	24単位
	簿記会計Ⅰ	2単位	1			必修	
	簿記会計Ⅱ	2単位	1			必修	
	ビジネスマナーとホスピタリティ	2単位	1			必修	
	観光経営Ⅰ	2単位	1			必修	
	新潟県の観光	2単位	1			必修	
	観光英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	観光英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅰ	1単位	1			必修	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅱ	1単位	1			必修	
	基礎ゼミナールⅠ	2単位	1			必修	
	英語Ⅰ	1単位	1			必修	
	英語Ⅱ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅰ	1単位	1			必修	
	英会話Ⅱ	1単位	1			必修	
	リーディングⅠ	1単位	1			必修	
ライティングⅠ	1単位	1			必修		
専門基本科目	観光経営Ⅱ	2単位		2		必修	24単位
	マーケティングの基礎	2単位		2		必修	
	財務諸表の見方・作り方	2単位		2		必修	
	キャリアデザインⅠ	2単位		2		必修	
	観光英語Ⅲ	1単位		2		必修	
	観光英語Ⅳ	1単位		2		必修	
	観光政策論	2単位		2		必修	
	レジャー産業論	2単位		2		必修	
	基礎ゼミナールⅡ	2単位		2		必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅰ	1単位		2		必修	
	コンピュータリテラシー応用Ⅱ	1単位		2		必修	
	オーラルイングリッシュⅠ	1単位		2		必修	
	オーラルイングリッシュⅡ	1単位		2		必修	
	英会話Ⅲ	1単位		2		必修	
	英会話Ⅳ	1単位		2		必修	
	リーディングⅡ	1単位		2		必修	
ライティングⅡ	1単位		2		必修		
区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件
専門応用科目	キャリアデザインⅡ	2単位			3	必修	必修科目10単位を含め12単位以上
	観光英語Ⅴ	1単位			3	必修	
	観光英語Ⅵ	1単位			3	必修	
	観光経営Ⅲ	2単位			3	必修	
	オーラルイングリッシュⅢ	1単位			3	必修	
	オーラルイングリッシュⅣ	1単位			3	必修	
	英会話Ⅴ	1単位			3	必修	
	英会話Ⅵ	1単位			3	必修	
	英語特論Ⅰ	2単位			4	選択	
	英語特論Ⅱ	2単位			4	選択	
	中国語特論	2単位			4	選択	
韓国語特論	2単位			4	選択		
ロシア語特論	2単位			4	選択		
専門選択科目	財務会計Ⅰ	2単位		2		選択	14単位以上
	財務会計Ⅱ	2単位		2		選択	
	ビジネス法Ⅰ	2単位		2		選択	
	ビジネス法Ⅱ	2単位		2		選択	
	海外英語実習	2単位		2		選択	
	販売と経営Ⅰ	2単位		2		選択	
	販売と経営Ⅱ	2単位		2		選択	
	原価計算論Ⅰ	2単位		2		選択	
	原価計算論Ⅱ	2単位		2		選択	
	経営トップセミナー	2単位		2		選択	
	マーケティングⅠ	2単位			3	選択	
	マーケティングⅡ	2単位			3	選択	
	経営戦略論Ⅰ	2単位			3	選択	
	経営戦略論Ⅱ	2単位			3	選択	
	財務管理論Ⅰ	2単位			3	選択	
	財務管理論Ⅱ	2単位			3	選択	
	国際経済論	2単位			3	選択	
	日本経済論	2単位			3	選択	
	経営分析論Ⅰ	2単位			3	選択	
	経営分析論Ⅱ	2単位			3	選択	
アジアビジネス論Ⅰ	2単位			3	選択		
アジアビジネス論Ⅱ	2単位			3	選択		
販売と経営Ⅲ	2単位			3	選択		
販売と経営Ⅳ	2単位			3	選択		
インターンシップ	2単位			3	選択		



観光経営学科2016年度（平成28年度）入学生カリキュラム表  
2/3

区分	科目名	単位数	配当年次	必修・選択の別	卒業要件	
コース専門基本科目	地域とビジネスⅠ	2単位	2		選択	レジャー・まちづくりコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)
	地域とビジネスⅡ	2単位	2		選択	
	まちづくり論	2単位	2		選択	
	まちづくり実習Ⅰ	2単位	2		選択	
	レジャー&アウトドア実習Ⅰ	2単位	2		選択	
	農業と観光	2単位	2		選択	アグリ・フードビジネスコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)
	フードビジネス論	2単位	2		選択	
	アグリ・フード実習Ⅰ	2単位	2		選択	
	農業ビジネス論Ⅰ	2単位	2		選択	
	農業ビジネス論Ⅱ	2単位	2		選択	
	異文化コミュニケーション	2単位	2		選択	英語・ツーリズムコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)
	通訳ガイド入門	2単位	2		選択	
	通訳ガイド演習Ⅰ	2単位	2		選択	
	旅行ビジネス論	2単位	2		選択	
	旅行業法	2単位	2		選択	
観光産業実習Ⅰ	2単位	2		選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)	
旅行実務演習	2単位	2		選択		
宿泊産業論	2単位	2		選択		
ホテル経営論	2単位	2		選択		
旅行ビジネス論	2単位	2		選択		
セレモニー産業論	2単位	2		選択	ホテル・ホスピタリティコースの学生は8単位以上 (ただし他コースの4単位を含んでもよい)	
宿泊関連産業実習Ⅰ	2単位	2		選択		
区分	科目名	単位数	配当年次	必修・選択の別	卒業要件	
コース専門応用科目	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	レジャー・まちづくりコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
	環境と自然エネルギー	2単位		3	選択	
	テーマパークとリゾート	2単位		3	選択	
	地域とイベント	2単位		3	選択	
	スキー産業論	2単位		3	選択	
	観光と開発	2単位		3	選択	
	世界遺産論	2単位		3	選択	
	まちづくり実習Ⅱ	2単位		3	選択	
	観光調査法	2単位		3	選択	
	レジャー&アウトドア実習Ⅱ	2単位		3	選択	
	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	アグリ・フードビジネスコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
	アグリビジネス起業論	2単位		3	選択	
	グリーンツーリズム特論	2単位		3	選択	
	農業政策論	2単位		3	選択	
	アグリ・フード実習Ⅱ	2単位		3	選択	
	アグリ・フード実習Ⅲ	2単位		3	選択	
	農業経営論	2単位		3	選択	
	食と文化	2単位		3	選択	
	商品の開発Ⅰ	2単位		3	選択	
	商品の開発Ⅱ	2単位		3	選択	
	専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	英語・ツーリズムコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)
	専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修	
	観光地理	2単位		3	選択	
	パブリックスピーキングⅠ	2単位		3	選択	
	パブリックスピーキングⅡ	2単位		3	選択	
	通訳ガイド演習Ⅱ	2単位		3	選択	
	通訳ガイド演習Ⅲ	2単位		3	選択	
	通訳ガイド総合演習	2単位		3	選択	
ビジネスイングリッシュⅠ	2単位		3	選択		
ビジネスイングリッシュⅡ	2単位		3	選択		
航空ビジネス論	2単位		3	選択		
交通サービス論	2単位		3	選択		
観光産業実習Ⅱ	2単位		3	選択		
専門ゼミナールⅠ	4単位		3	必修	ホテル・ホスピタリティコースの学生は必修科目8単位を含め24単位以上 (ただし他コースの8単位を学んでもよい)	
専門ゼミナールⅡ	4単位		4	必修		
宿泊関連産業実習Ⅱ	2単位		3	選択		
ホスピタリティ産業の人材管理	2単位		3	選択		
民宿・旅館経営論	2単位		3	選択		
着物文化と演習	2単位		3	選択		
プライダル論	2単位		3	選択		
プライダル演習	2単位		3	選択		
秘書概論	2単位		3	選択		
秘書実務	2単位		3	選択		
サービスと接遇	2単位		3	選択		

観光経営学科2016年度（平成28年度）入学生カリキュラム表  
3/3

区分	科目名	単位数	配当年次			必修・選択の別	卒業要件		
外国語科目	中国語Ⅰ	1単位		2		選択	4単位以上 ※1言語で継続して4単位		
	中国語Ⅱ	1単位		2		選択			
	中国語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	中国語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	ロシア語Ⅰ	1単位		2		選択			
	ロシア語Ⅱ	1単位		2		選択			
	ロシア語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	ロシア語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	韓国語Ⅰ	1単位		2		選択			
	韓国語Ⅱ	1単位		2		選択			
	韓国語会話Ⅰ	1単位			3	選択			
	韓国語会話Ⅱ	1単位			3	選択			
	教養科目 一般教養科目	法学	2単位	1				選択	必修科目4単位を含め14単位以上
		心理学	2単位	1				選択	
経済学		2単位	1			選択			
現代社会と福祉		2単位	1			選択			
日本国憲法		2単位	1			選択			
教養の自然科学		2単位	1			選択			
地理学		2単位	1			選択			
外国史		2単位	1			選択			
教養の文章理解Ⅰ		2単位	1			選択			
教養の文章理解Ⅱ		2単位	1			選択			
アウトドアスポーツ		2単位	1			選択			
スポーツ&レジャー		2単位	1			選択			
宗教学		2単位	1			選択			
アジア言語入門（中・露・韓）		2単位	1			必修			
現代社会と情報	2単位	1			必修				

卒業要件		} 計124単位以上
専門基礎必修科目	24単位	
専門基本科目	24単位	
専門応用科目	12単位以上	
専門選択科目	14単位以上	
コース専門基本科目	8単位以上	
コース専門応用科目	24単位以上	
外国語科目	4単位以上	
一般教養科目	14単位以上	

## 科目別掲載ページ一覧(50音順)

アウトドアスポーツ	17	販売と経営Ⅰ・Ⅱ	73
アグリ・フード実習Ⅰ	18	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ	74
アジア言語入門(中・露・韓)	19	ビジネスマナーとホスピタリティ	75
異文化コミュニケーション	20	フードビジネス論	76
英会話Ⅰ・Ⅱ	21	法学	77
英会話Ⅲ・Ⅳ	22	簿記会計Ⅰ・Ⅱ	78
英語Ⅰ・Ⅱ	23	ホテル経営論	79
オーラルイングリッシュⅠ・Ⅱ	24	マーケティングの基礎	80
音楽表現Ⅰ・Ⅱ	25	まちづくり実習Ⅰ	81
海外英語実習	26	まちづくり論	82
外国史	27	ライティングⅠ	83
観光英語Ⅰ・Ⅱ	28	ライティングⅡ	84
観光英語Ⅲ・Ⅳ	29	リーディングⅠ	85
観光経営Ⅰ	30	リーディングⅡ	86
観光経営Ⅱ	31	旅行業法	87
観光産業実習Ⅰ	32	旅行実務演習	88
観光政策論	33	旅行ビジネス論	89
韓国語Ⅰ・Ⅱ	34	レジャー&アウトドア実習Ⅰ	90
基礎ゼミナールⅠ	35	レジャー産業論	91
基礎ゼミナールⅡ	36	ロシア語Ⅰ・Ⅱ	92
キャリアデザインⅠ	37		
教養の自然科学	38		
教養の文章理解Ⅰ・Ⅱ	39		
経営学の基礎	40		
経営トップセミナー	41		
経済学	42		
原価計算論Ⅰ・Ⅱ	43		
現代社会と情報	44		
現代社会と福祉	45		
コンピュータリテラシー応用Ⅰ・Ⅱ	46		
コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ	47		
財務会計Ⅰ・Ⅱ	48		
財務諸表の見方・作り方	49		
宗教学	50		
宿泊関連産業実習Ⅰ	51		
宿泊産業論	52		
心理学	53		
スポーツ&レジャー(アウトドアクラス)	54		
スポーツ&レジャー(球技クラス)	55		
スポーツ&レジャー(太極拳)	56		
スポーツ&レジャー(ダンス)	57		
セレモニー産業論	58		
地域と観光	59		
地域とビジネスⅠ	60		
地域とビジネスⅡ	61		
地誌	62		
中国語Ⅰ・Ⅱ	63		
地理学	64		
通訳ガイド演習Ⅰ	65		
通訳ガイド入門	66		
新潟県の観光	67		
日本国憲法	68		
日本史	69		
日本文化史	70		
農業と観光	71		
農業ビジネス論Ⅰ・Ⅱ	72		

科目名	開講期	単位数	担当教員		
アウトドアスポーツ	夏季・冬季	夏季・冬季 各2単位	<small>すぎうら ぜんじろう</small> 杉浦 善次郎 (404研究室) E-mail: sugiura@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1	
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○			○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>レジャー活動として幅広い年代に親しまれているアウトドアスポーツを体験し、技能や知識を習得するとともに、健康増進や生き甲斐に繋がる可能性を理解し、自ら企画運営できる能力の習得を目指す。</p> <p>夏季はキャンプ及び水辺活動を、冬季はスキー・スノーボードを実施する。なお、夏季のみ、冬季のみの履修も可能である。</p> <p>本科目は、繰返し履修することが可能であり、修得単位は卒業単位に加算される。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
アウトドアスポーツの体験を通じて、技術や知識を獲得する。また、地域資源を活用したスポーツ・ツーリズムについて理解できるようになる。					
<b>【授業計画】</b>					
夏季			冬季		
ガイダンス(1時間)			ガイダンス(1時間)		
野外活動の基礎理論講義(1時間)			事前講習(1時間)		
安全管理の講義(1時間)			現地実習(3泊4日) 志賀高原		
現地実習(2泊3日) みなかみ			スキーもしくはスノーボード実技及びビデオクリニック		
野外炊事					
オリエンテーリング・ウォークラリー					
工作					
ラフティング及びキャニオニングもしくはカヌー					
パラグライダー					
フィールドゲーム					
<b>【履修条件】</b>					
特になし					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
<p>実習費が必要である。</p> <p>活動に適した服装や準備する用具についての詳細はガイダンスで説明する。</p>					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%。					
<b>【テキスト】</b>					
なし					
<b>【参考文献】</b>					
なし					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
アグリ・フード実習 I	前期	2単位	<small>さとむら こういち</small> 里村 孝一(2307研究室)・ <small>たきぎわ けんいち</small> 滝沢 憲一(2309研究室) E-mail : k-takizawa@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	アグリ・フードビジネスコース専門基本科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本科目においては地域における農業、食品の現場における理解を深め行動する態度を養う。また、栽培、加工、販売の実習を通してアグリ・フードに対して学んだ知識の裏付けを図る。</p> <p>具体的には稲作、果樹、野菜の分野を中心に実習を行う。実習先については農家、農園、食品加工会社、農協、スーパーマーケット、輸送会社あるいは輸出入を手がける商社等を対象としている。</p> <p>また、地域の活性化や個々のアグリ・フードのビジネスとしてマーケティングあるいはマネージメントの視点から考察を行う。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>日々の生産・営業活動を通して、現場作業者の作業や管理手法・作業手順等を知り、派遣先のマネージメントの実際と課題（気づいたこと等）を理解して整理し、学んだ基礎知識の裏付けが確認できる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：事前実習	}	派遣先の実習計画作成・事前打合せ、派遣先の事業環境調査、技術基礎実習		
第2回：事前実習				
第3回：事前実習				
第4回：派遣実習	}	農・食及びそれに関する経営体又は事業所における経営管理・作業実習		
第5回：派遣実習				
第6回：派遣実習				
第7回：派遣実習				
第8回：派遣実習				
第9回：派遣実習				
第10回：派遣実習				
第11回：派遣実習				
第12回：派遣実習				
第13回：派遣実習				
第14回：派遣実習				
第15回：派遣実習成果報告		※実習の時期、内容は、派遣先の計画による。 ただし、実施期間は大学の夏季休暇を中心とする。		
<b>【履修条件】</b>				
農と食に関するビジネス活動に関心があること				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
実習日誌をつけること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
活動内容（派遣先の評価を含む取り組み姿勢等）と成果報告（レポート作成含む）などを総合的に評価。				
<b>【テキスト】</b>				
特になし				
<b>【参考文献】</b>				
特になし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
アジア言語入門(中・韓・露)	通年	2単位	梅田純子、朱貞淑、ツェリッシュェフ イワン	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
中国語、韓国語、ロシア語のそれぞれの言語の基礎的な会話などやそれぞれの言語の文字などを中心に学習する。また、それぞれの国の文化や習慣についても学ぶ。				
<b>【到達目標】</b>				
読み書きや簡単な日常会話ができるようにして、それぞれの国の言語と並んでその文化、価値観、習慣などに興味を持たせる。				
<b>【授業計画】</b>				
前期		後期		
第1回	全体のガイダンス、中国の概要、ガイダンス(中国語)	第16回	中国語クイズ(前期の復習、文化)	
第2回	①発音(四声)②名前を中国語で言ってみよう	第17回	①名詞の文②趣味	
第3回	①発音(母音)②数(1~10)誕生日	第18回	①形容詞の文②食べ物や飲み物	
第4回	①発音(子音)②数(1~100)ビンゴに挑戦	第19回	①動詞の文②動物	
第5回	復習、中国語のテスト	第20回	復習、中国語のテスト	
第6回	韓国の概要、文字の構成、母音、単語	第21回	韓国の文化、文字の復習	
第7回	文字、母音、子音、単語	第22回	文字、パッチム、単語	
第8回	文字、子音、単語、挨拶	第23回	文字、合成母音、単語	
第9回	文字、子音、単語、ハングルで名前や地名を書く	第24回	文字、自己紹介	
第10回	復習、韓国語のテスト	第25回	復習、韓国語のテスト	
第11回	ロシアの概要、ガイダンス(ロシア語)、アルファベットと発音	第26回	ロシアの文化。ボキャビュラリー、文例	
第12回	アルファベットと発音	第27回	会話: 町を歩く	
第13回	名詞、動詞、形容詞、数字、文例	第28回	会話: 友達と話す	
第14回	自己紹介、日常会話	第29回	手紙を読む・書く	
第15回	復習、ロシア語のテスト	第30回	復習、ロシア語のテスト	
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
欠席を避け、与えられた課題に積極的に対応すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
受講態度、積極性、テストと期末試験の得点等を総合的に判断して行う。				
<b>【テキスト】</b>				
中国語:本講座専用教材を使う(詳しくは初回の授業で説明)。				
韓国語:プリント等を使う。				
ロシア:プリント等さまざまな資料を使う。				
<b>【参考文献】</b>				
随時、指示する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
異文化コミュニケーション	前期	2単位	<small>いちしま きよたか</small> 市島 清貴 (309研究室) E-mail: ichishima@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>文化的背景を異にする人々と共存・共生していくために、異文化理解能力と言語コミュニケーション能力の向上を図る。コミュニケーションの理論を概観し、多文化社会を生きる者のコミュニケーションのあり方を身近な誤解、失敗、すれ違いのケースを題材に、多様な角度から掘り下げて考える。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>異質の他者との出会いを楽しむ。広い視野と豊かな人間性を身につけ、違いを受容し、互いに尊重し合える人材の育成を目的とする。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：異文化コミュニケーションを学ぶということ 第2回：異文化コミュニケーションの基礎概念 第3回：自己とアイデンティティ 第4回：コミュニケーションを阻む障害 第5回：コミュニケーションと説得 第6回：言語コミュニケーション 第7回：中間考査 まとめ 第8回：非言語コミュニケーション 第9回：オノマトペとアクセント 第10回：対人コミュニケーション 第11回：広告のレトリック 第12回：バイリンガル 第13回：ディベート 第14回：異文化コミュニケーションのまとめ 第15回：異文化コミュニケーションのレポート発表				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
念入りな授業の準備と復習が求められる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
出席状況、課題提出、積極性、試験等を総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
開講時に指示する。				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
英会話 I・II	I:前期 II:後期	I:1単位 II:1単位	サウスウィック プライアン (2306 研究室) E-mail: b-southwick@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
この授業は、学生がいろいろな生活場면을英語でスラスラ自信を持って話すことができるように作られています。基本はlisteningとspeakingですが、readingもwritingも含まれます。ペアワークまたはグループワークを行って、英語で話して自然な場面を作ります。				
<b>【到達目標】</b>				
自分が伝えたいことを英語で伝えるようになること。相手が話していることを理解できるようになること				
<b>【授業計画】</b>				
英会話 I		英会話 II		
第1回: ガイダンス・Unit 1 Part 1		第1回: ガイダンス		
第2回: Unit 1 Part 2		第2回: Unit 7 Part 1		
第3回: Unit 2 Part 1		第3回: Unit 7 Part 2		
第4回: Unit 2 Part 2; Unit 3 Part 1		第4回: Unit 8 Part 1		
第5回: Unit 3 Part 2; Review		第5回: Unit 8 Part 2; Review		
第6回: Quiz 1; Movie		第6回: Quiz 1; Movie		
第7回: Unit 4 Part 1		第7回: Unit 9 Part 1		
第8回: Unit 4 Part 2; Unit 5 Part 1		第8回: Unit 9 Part 2		
第9回: Unit 5 Part 2; Review		第9回: Unit 10; Review		
第10回: Mid-term Exam		第10回: Mid-term Exam		
第11回: Special Topic		第11回: Unit 11 Part 1		
第12回: Unit 6 Part 1		第12回: Unit 11 Part 2		
第13回: Unit 6 Part 2; Review		第13回: Unit 12; Review		
第14回: Quiz 2; Movie		第14回: Quiz 2; Movie		
第15回: まとめ		第15回: まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられ課題に積極的に対応すること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する				
<b>【テキスト】</b>				
English Firsthand Success; Helgesen, M., Brown, S., Wiltshier, J.; Pearson/ Longman; ISBN 9789880030581				
<b>【参考文献】</b>				
和英・英和辞典				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
英会話Ⅲ・Ⅳ	Ⅲ:前期 Ⅳ:後期	Ⅲ:1単位 Ⅳ:1単位	サウスウィック プライアン (2306研究室) フィニー ティモシー E-mail : b-southwick@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	2
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
この授業は、学生がいろいろな生活場면을英語でスラスラ自信を持って話すことができるように作られています。基本はlisteningとspeakingですが、readingもwritingも含まれます。ペアワークまたはグループワークを行って、英語で話して自然な場面を作ります。				
<b>【到達目標】</b>				
自分が伝えたいことを英語で伝えるようになること。相手が話していることを理解できるようになること				
<b>【授業計画】</b>				
英会話Ⅲ		英会話Ⅳ		
第1回：ガイダンス・Unit 1 Part 1		第1回：ガイダンス		
第2回：Unit 1 Part 2		第2回：Unit 7 Part 1		
第3回：Unit 2 Part 1		第3回：Unit 7 Part 2		
第4回：Unit 2 Part 2; Unit 3 Part 1		第4回：Unit 8 Part 1		
第5回：Unit 3 Part 2; Review		第5回：Unit 8 Part 2; Review		
第6回：Quiz 1; Movie		第6回：Quiz 1; Movie		
第7回：Unit 4 Part 1		第7回：Unit 9 Part 1		
第8回：Unit 4 Part 2; Unit 5 Part 1		第8回：Unit 9 Part 2		
第9回：Unit 5 Part 2; Review		第9回：Unit 10; Review		
第10回：Mid-term Exam		第10回：Mid-term Exam		
第11回：Special Topic		第11回：Unit 11 Part 1		
第12回：Unit 6 Part 1		第12回：Unit 11 Part 2		
第13回：Unit 6 Part 2; Review		第13回：Unit 12; Review		
第14回：Quiz 2; Movie		第14回：Quiz 2; Movie		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられ課題に積極的に対応すること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する				
<b>【テキスト】</b>				
開講の時に指示する				
<b>【参考文献】</b>				
和英・英和辞典				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
英語Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	<small>いのうえ のぶ え</small> 井上 信恵 (2301研究室)、 <small>きぶし</small> 木伏 あづさ E-mail : n-inoue@duck.niigataum.ac.jp azuki-21@cameo.plala.or.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必 修	1
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>実用的な英語力を測る基準として、就職の際にも英語資格試験のスコアを重視する企業が増えてきている。本講義では、そういった資格試験への受験意欲を促し、スコア達成のための表現を学ぶと共に、単なるスコア達成にとどまることなく、英語力そのものを向上させることを目的とする。具体的には、多くの企業が採用しているTOEICに焦点を当て、TOEICでよく出題されるボキャブラリー、イディオム、文法表現等を学びながら、生きた英語の習得を目指す。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
TOEICの出題形式に慣れ、基本的なビジネス表現及び日常表現を習得できるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
前期 (英語Ⅰ)		※シラバス記載のユニットはテキストと対応		
後期 (英語Ⅱ)				
第1回：ガイダンス、Unit 3 (Media)	第1回：ガイダンス、Unit 10 (Meetings)			
第2回：Unit 3 (Media)	第2回：Unit 10 (Meetings)			
第3回：Unit 4 (Entertainment)	第3回：Unit 11 (Finance)			
第4回：Unit 4 (Entertainment)	第4回：Unit 11 (Finance)			
第5回：Unit 6 (Clients)	第5回：Unit 12 (Offices)			
第6回：Unit 6 (Clients)	第6回：Unit 12 (Offices)			
第7回：Unit 7 (Recruiting)	第7回：Unit 13 (Daily Life)			
第8回：Unit 7 (Recruiting)	第8回：Unit 13 (Daily Life)			
第9回：Unit 8 (Personnel)	第9回：Unit 14 (Sales & Marketing)			
第10回：Unit 8 (Personnel)	第10回：Unit 14 (Sales & Marketing)			
第11回：Unit 9 (Advertising)	第11回：Unit 15 (Events)			
第12回：Unit 9 (Advertising)	第12回：Unit 15 (Events)			
第13回：課題「英文メールの書き方」	第13回：課題「英文レターの書き方」			
第14回：レビュー (Unit 3～4、6～9)	第14回：レビュー (Unit 10～15)			
第15回：まとめ	第15回：まとめ			
備考：テキスト内のChallengeについてはクラスAのみで扱う。				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
毎回の小テスト又は課題が成績評価対象となるため、そのための準備・復習が求められる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
《英語Ⅰ》小テスト又は課題30% (全6回、各5%)、課題「英文メール」20%、期末試験50%				
《英語Ⅱ》小テスト又は課題30% (全6回、各5%)、課題「英文レター」20%、期末試験50%				
<b>【テキスト】</b>				
早川幸治/番場直之/中村信子/鈴木頭 (著) 『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST』 (金星堂)				
<b>【参考文献】</b>				
特になし。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
オーラルイングリッシュ I・II	I:前期 II:後期	I:1単位 II:1単位	トゥーミー グレグ・フィニー ティモシー E-mail: twomey5@fuga.ocn.ne.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>英語でコミュニケーションをとることに自信を持たせることと、その能力を発展させることを目的としている。</p> <p>様々な日常的なことや観光産業に関連したトピックスを使って実用的な英語を習得する。</p> <p>クラスを進行するうえで重要なのは、講義を聴くだけでなく、ペアワークや発表を通してお互いの情報を交換することである。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
履修者が基礎英語のレベルで自信を持って英会話ができるようになること。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回: Introduction</p> <p>第2回: Describing People</p> <p>第3回: Describing Places</p> <p>第4回: Talking about the Past</p> <p>第5回: Comparing &amp; Contrasting Things</p> <p>第6回: Talking about the Future</p> <p>第7回: Explaining about Japan</p> <p>第8回: Countries &amp; Travel</p> <p>第9回: Presentation I - Introduce a Country</p> <p>第10回: Food &amp; Health</p> <p>第11回: Offering, Ordering &amp; Complaining</p> <p>第12回: Hotel Information Exchange/Quiz/Game</p> <p>第13回: Describing Graphs</p> <p>第14回: Expressing Reasons &amp; Opinions</p> <p>第15回: Presentation II - Introduce a Graph</p>				
<b>【履修条件】</b>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
履修者一人一人の学習の向上のため、意欲的な姿勢を示して学習に臨む。社会人にふさわしいマナーや態度が身に付けられるようにクラスでも意識して授業に臨む。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
タームごとに行われる2回ずつのプレゼンテーション				
<b>【テキスト】</b>				
テキストなし。ワークシート（講師が準備）				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
音楽表現Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	さいとう たつお 斎藤 竜夫	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○				
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>様々な時代・ジャンルの合唱作品に接することにより、音楽を表現することのすばらしさ、楽しさを感じたい。</p> <p>われわれは実際に鳴り響く音楽だけでなくそこに内在するファンタジーを理解することができる。そのことを主に合唱表現を通して理解したい。</p> <p>また音楽とは記号的なシステムであり、そのシステムを理解するものみに語りかける。この授業では合唱を通してそのシステムを理解することも目指す。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>楽譜から必要な情報を読み取り、表現できること</p> <p>作品の様式にあわせた表現ができること</p>				
<b>【授業計画】</b>				
前期		後期		
第1回：ガイダンス		第1回：ガイダンス		
第2回：読譜するということ		第2回：和声学1		
第3回：楽典1		第3回：和声学2		
第4回：楽典2		第4回：合唱の実際1		
第5回：合唱の実際1		第5回：合唱の実際2		
第6回：合唱の実際2		第6回：合唱の実際3		
第7回：合唱の実際3		第7回：和声学3		
第8回：音楽の形式1		第8回：和声学4		
第9回：音楽の形式2		第9回：ソルフェージュ1		
第10回：ソルフェージュ1		第10回：ソルフェージュ2		
第11回：ソルフェージュ2		第11回：合唱の実際4		
第12回：合唱の実際4		第12回：合唱の実際5		
第13回：合唱の実際5		第13回：合唱の実際6		
第14回：合唱の実際6		第14回：合唱の実際7		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
音楽表現に真摯に向き合える者				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
様々な音楽に触れること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
受講態度・実際の音楽表現をトータルで評価する				
<b>【テキスト】</b>				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
海外英語実習	春 期	2 単位	<small>いのうえ のぶえ</small> 井上 信恵 (2301 研究室) E-mail : n-inoue@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科 目 区 分		必修・選択の別	配 当 年 次
観光経営学科	コース専門基本科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本実習は、異文化に関心を持ち、英語によるコミュニケーション力を高めたいと考えている学生を対象とした2週間の短期留学プログラムである。イギリスで英語研修を受講すると共に、世界各国からの留学生と共に様々なアクティビティーやフィールドトリップ等に参加することで、英語力を高めながら本国以外の文化や価値観に触れ、国際感覚を養うことを目指す。</p> <p>尚、旅行業や観光業に興味がある者にとって実践的な学びが可能となるよう、企画・実施は旅行会社と連携して行い、本プログラムを旅行商品の一つとして例に取りながら、旅行手続きの具体的な進め方や、海外旅行時のリスク管理、ツアーコンダクター業務等について指導を行う。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
多様な文化を理解し尊重する国際的視野を身につけられる。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>研修先：イギリス</p> <p>研修期間：春季休業中の2週間</p> <p>研修内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前・午後：英語研修</li> <li>・放課後：アクティビティーやフィールドトリップ等</li> </ul> <p>滞在先：ホームステイ又は学生寮</p> <p>備考：渡航前オリエンテーションを含めた複数回の事前・事後指導を行う。</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>本研修の目的は多様な文化や価値観への理解を深めることにあるため、英語力や海外経験については一切問われない。旅行手続きや空港での対応など、海外渡航の際に必要な実践的な指導を行うため、過去に海外経験はないが、本プログラムをきっかけとして、今後自身の力で海外旅行へ行ってみたい者にも勧められるプログラムである。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
事前・事後研修及び研修中の出席状況、課題レポート等から総合的に行う。				
<b>【テキスト】</b>				
教員が別途配布する研修資料。				
<b>【参考文献】</b>				
特になし。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
外国史	後期	2単位	<small>おおみや まこと</small> 大宮 誠 E-mail: omiya.makoto@live.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>現在の私たちがおかれている世界は、かつてないレベルで一体化を遂げ、さらに深めつつある。この現象であるグローバル化は、地球上に生活するあらゆる人々に大きな影響を与えて、深刻な問題を引き起こしてきた。グローバル化はここ500年ほどのあいだに進展し、グローバル化を理解するためには、「近現代」の歴史を理解することが不可欠である。しかしながら本授業では、現在の私たちが生活する世界に直結する、1870年代からのいわゆる「長い20世紀」の歴史に焦点を当てて、考察したい。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>歴史的事実の前後にある因果関係を、支配・被支配、為政者・国民の視点から考えることにより、暗記科目ではない歴史の面白さを知るとともに、今日につながる歴史の実像を理解することができます。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：帝国主義世界体制の形成と確立 ① 1870年代からの分割される世界 第3回：帝国主義世界体制の形成と確立 ② 第一次世界大戦前の支配と被支配の構図 第4回：帝国主義世界体制の動揺 ① 第一次世界大戦の様相 第5回：帝国主義世界体制の動揺 ② 帝国の総力戦 第6回：帝国主義世界体制の動揺 ③ 第一次世界大戦後の帝国支配の動揺と再編 第7回：第一次世界大戦期までのアイルランド・南アフリカ・沖縄 第8回：帝国主義世界体制の再編 ① 世界恐慌と1930年代 第9回：帝国主義世界体制の再編 ② 第二次世界大戦 第10回：帝国主義世界体制の解体 ① 第二次世界大戦後の脱植民地化の進展 第11回：帝国主義世界体制の解体 ② 脱植民地化と冷戦の間 第12回：帝国主義世界体制の解体 ③ 帝国主義世界体制の終焉 第13回：第二次世界大戦以降のアイルランド・南アフリカ・沖縄 第14回：グローバル化世界の新たな段階 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
常に、歴史的な事実が何故起こったのか因果関係を考えながら、授業に臨むことが必要です。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
基本的な知識の確認と、課題に対して論理的な記述ができているかを評価します				
<b>【テキスト】</b>				
木畑洋一『20世紀の歴史』（岩波新書、2014年）				
<b>【参考文献】</b>				
上杉忍・山根徹也編『歴史から今を知る』（山川出版社）、アンヌ・モレリ『戦争プロパガンダ10の法則』（草思社）、ゴードン・A・グレイグ、アレキサンダー・L・ジョージ『軍事力と外交』（有斐閣）、『世界の歴史26～30巻』（中央公論社） 上記以外の参考文献は講義中に随時提示します。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光英語Ⅰ・Ⅱ	I:前期 II:後期	I:1単位 II:1単位	井上 信恵 (2301研究室)、小林 美奈子 E-mail: n-inoue@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必 修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
観光ビジネスも多様化し、ツアーコンダクターなどの旅行業務従事者をはじめとして、各観光施設における観光業務、ホテルやレストランなどでの各種業務、来日観光客への通訳ガイドなど、様々なニーズに応えられるプロフェッショナルの養成が急務となっている。このような背景を踏まえ、本講義ではアウトバウンド（海外旅行）及びインバウンド（訪日旅行）においてよく使用される実践的な英語表現に焦点を当て、将来観光産業を志す者に求められる英語力の基礎を身につけることを目的とする。				
<b>【到達目標】</b>				
海外旅行を行う際に必要とされる初歩的な英語表現を使用できるようになる。また、日本を訪れる観光客に対して躊躇することなく英語でコミュニケーションを図ることができるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
※シラバス記載のユニットは観光英語テキスト、ページはTOEICテキストと対応				
前期（観光英語Ⅰ）			後期（観光英語Ⅱ）	
第1回：Induction - ガイダンス Unit 1 (Travel and Tourism)			第1回：Induction - ガイダンス Travel (Unit 1-pp. 12-16)※2	
第2回：Unit 1, Unit 3 (Airplanes)			第2回：Travel (Unit 1-pp. 17-20)※2	
第3回：Unit 3, Unit 4 (Immigration and Customs)			第3回：Transportation ([1][3][9][10])	
第4回：Unit 4, Unit 5 (Airports)			第4回：Ryokans ([4][5][6])	
第5回：Unit 5, Unit 6&[2]※1 (Hotels)			第5回：Structuring a presentation	
第6回：Unit 6, Unit 7 (Eating out)			第6回：Dining out (pp. 21-25)※2	
第7回：Unit 7, A Review of Units 3 - 7			第7回：Dining out (pp. 26-29)※2, Japanese Dishes ([7])	
第8回：Midterm Exam			第8回：Shopping (pp. 48-52)※2	
第9回：Introduction to Role-play (Unit 2 (pp. 16, 17-19))			第9回：Shopping (pp. 53-57)※2, Gifts and Souvenirs ([8])	
第10回：Unit 8 (Sightseeing)			第10回：Assessment (Presentation)	
第11回：Unit 9 (Shopping)			第11回：Introduction to Role-play ([11][12])	
第12回：Unit 10 (Transportation)			第12回：Exam Focus: Kanko Eiken Grade 3 (Reading)	
第13回：Unit 11 (Health and Safety), A Review of Units 8 - 11			第13回：Exam Focus: Kanko Eiken Grade 3 (Listening)	
第14回：Assessment (Role-play)			第14回：Assessment (Role-play)	
第15回：Reflection - まとめ			第15回：Reflection - まとめ	
※1：クラスAのみで扱う			※2：クラスBについては、Review Quizを中心に扱う。	
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
ロールプレイ及びプレゼンテーションが成績評価の対象となるため、そのための準備が必要となる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
《観光英語Ⅰ》中間試験20%、ロールプレイ20%、期末試験60%、 《観光英語Ⅱ》プレゼンテーション20%、ロールプレイ20%、期末試験60%				
<b>【テキスト】</b>				
《観光英語Ⅰ》観光英検センター(著)『CD付 ベーシック観光英語 English for Tourism -Basic-』(三修社) 《観光英語Ⅰ・Ⅱ》 ・観光英検センター(著)『CD付 ベーシック観光英語 English for Tourism -Basic-』(三修社)、 ・早川幸治/番場直之/中村信子/鈴木頭(著)『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST』(金星堂)※英語ⅠⅡと同様のテキスト				
<b>【参考文献】</b>				
観光英検センター(著)『受検前にぜひチェックしておきたい頻出150項目(過去問徹底解析3級・2級)』				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光英語Ⅲ・Ⅳ	Ⅲ:前期 Ⅳ:後期	Ⅲ:1単位 Ⅳ:1単位	<small>きぶし</small> 木伏 あづさ、 <small>こばやし</small> 小林 美奈子 E-mail : azuki-21@cameo.plala.or.jp m.kobayashi@lime.plala.or.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修 対象入学年度		必修	2
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
観光英語Ⅱで培った基礎力をもとに、観光産業で働く際に必要となる実践的な英語力を身につけることを目的とする。また、随時TOEICのテキストを使用し、総合的な英語力を高めつつ、観光英検合格を目指す。※オーラルコミュニケーション力を高めるため、授業は主に英語で進めるが、必要に応じて日本語でも補足する。 《観光英語Ⅲ》空港・ホテル・レストラン・道案内など様々な場面で、観光ビジネスのプロフェッショナルとして使用する頻度が高い表現を学ぶ。 《観光英語Ⅳ》世界各国及び国内の観光地に関する知識を英語で学ぶ。また、トラブルや苦情に対する対応やツアーコンダクターの職務などを英語で学ぶ。				
<b>【到達目標】</b>				
観光地や観光施設で必要とされる基本的な英語表現を使用できるようになる。また、観光産業に関する平易な英文を躊躇することなく読むことができるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
前期（観光英語Ⅲ）		後期（観光英語Ⅳ）		
第1回：ガイダンス		第1回：ガイダンス		
第2回：旅行情報		第2回：郵便と両替		
第3回：旅行情報		第3回：郵便と両替		
第4回：空港		第4回：観光（1）		
第5回：空港		第5回：観光（1）		
第6回：ホテル		第6回：観光（2）		
第7回：ホテル		第7回：観光（2）		
第8回：中間テスト		第8回中間テスト		
第9回：食事		第9回トラブルと苦情		
第10回：食事		第10回トラブルと苦情		
第11回：道案内		第11回ツアーコンダクターの職務		
第12回：道案内		第12回ツアーコンダクターの職務		
第13回：リスニングトレーニング		第13回リスニングトレーニング		
第14回：リーディングトレーニング		第14回リーディングトレーニング		
第15回：まとめ		第15回まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
単語テスト・小テストの準備・復習ならびに積極的な授業参加が求められる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
単語・小テスト20%、課題20%、定期試験60%				
<b>【テキスト】</b>				
観光英検センター（著）『ステップアップ観光英語』（三修社）				
早川幸治（著）『TOEIC(R)テスト書き込みドリル 全パート入門編 新装版』				
<b>【参考文献】</b>				
観光英検センター（著）『受検前にぜひチェックしておきたい頻出150項目（過去問徹底解析3級・2級）』				
TEX加藤他（著）『新TOEIC(R)Test入門特急とれる600点』朝日新聞出版				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光経営Ⅰ	後期	2単位	バロリ ブレンディ (2313研究室) E-mail: b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本講義は、観光サービスを提供する各種の事業活動(=観光事業)の全貌を、経営学の視点から概観する。そのために、観光経営の現場における問題の所在、諸問題が生起する原因、問題解決に資する方策、そして観光のさらなる振興に寄与する事業創造等を理論と事例分析を通じて考察する。前期は「観光経営の基礎理論」、後期は「観光事業の経営および環境の理解」を中心に講義を進める。なお、観光分野の実務家を外部講師として招き講義を行うこともある。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>内容をきちんと理解し、学外の第三者へ説明できるレベルに到達した学生を想定している。観光経営に関する理論に基づき、観光事業を取り巻く環境と観光関連の各部門について理解を深めることを狙う。具体的には下記のことを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光経営の理論を把握すること</li> <li>・観光事業を取り巻く環境と課題の解決に向けた施策を理解すること</li> <li>・さまざまな観光事業体の現状と課題について理解すること</li> </ul>				
<b>【授業計画】</b>				
後期				
第1回：ガイドンス				
第2回：観光産業の理解				
第3回：観光経営の基礎				
第4回：観光経営に関する諸理論				
第5回：観光経営を取り巻く環境の理解				
第6回：外食産業経営（フィールドワーク）				
第7回：宿泊産業経営（フィールドワーク）				
第8回：観光行動と観光市場				
第9回：観光政策と行政				
第10回：観光まちづくり				
第11回：集客戦略				
第12回：観光産業の人的資源管理				
第13回：観光業界が求める人材像				
第14回：新潟県内フィールドワーク				
第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>「○○新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されているので、目を通しておくとよいでしょう。」  「県内の○○センターには関連する最新情報が掲示されています。」  などの、学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいと思います。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
課題レポート30%（各レポート15%×2回）、期末試験50%、受講態度 20%				
<b>【テキスト】</b>				
岡本伸之編著 「観光経営学」朝倉書店 2013年。				
<b>【参考文献】</b>				
手嶋雅夫、関口陽介、他「観光のビジネスモデル:利益を生み出す仕組みを考える」、学芸出版社2011年。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光経営Ⅱ	前期	2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘 (2314研究室) E-mail: yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本講義の第一段階では、企業活動の仕組み理解するために、法律、金融資本、利害関係者および企業が社会にて提供する財とサービスの関係を体系立てて整理します。</p> <p>続いて、ゴーイングコンサーンの前提にたち、戦略、組織、人的資源について理解します。</p> <p>さらに、近時の社会環境の激変に対応できる経営学を習得する端緒を開くため、イノベーションについて学習します。</p> <p>なお、座学に終始する講義を避けるため、理論な説明とできるだ最近のトピックを盛り込んだケース・スタディのバランスを考慮して進めます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>企業経営の体系を理解し、各種のメディアが発する関連情報の本質を理解できるようになる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス 企業経営の全体像</p> <p>第2回：経営学の諸相</p> <p>第3回：企業経営のしくみ1 会社法・企業会計</p> <p>第4回：企業経営のしくみ2 インプット市場（金融資本・労働）</p> <p>第5回：企業経営のしくみ3 アウトプット市場（製品・サービス）</p> <p>第6回：戦略のマネジメント1 競争戦略の基本</p> <p>第7回：戦（のマネジメント2 競争戦略の応用</p> <p>第8回：戦略のマネジメント3 多角化戦略</p> <p>第9回：組織のマネジメント マクロの視点・マクロの視点</p> <p>第10回：イノベーションのマネジメント1 シュンペーター、ドラッカー、クリステンセン</p> <p>第11回：イノベーションのマネジメント2 知的財産</p> <p>第12回：付加価値額の創出</p> <p>第13回：企業倫理とコーポレートガバナンス</p> <p>第14回：中小企業の経営</p> <p>第15回：まとめ（経営のパースペクティブ）</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>新聞、テレビ、インターネットから伝えられる時事問題に対して常に興味関心を持ってください。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<p>小テスト（60%）＋中間テスト（20%）＋期末テスト（20%）で評価します</p>				
<b>【テキスト】</b>				
<p>なし</p> <p>ただし、授業時に配布するプリントを用いて講義をすすめます</p>				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光産業実習 I	前期	2単位	<small>おぼた ひろまさ</small> 小畑 博正 (2304研究室) E-mail: h-obata@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>この授業は、就職活動をする前に仕事をする意義を理解し、実際の体験を通して、主に観光産業(旅行業)にかかわる企業・団体に実習することを目的とする。</p> <p>事前指導、実習、事後指導の一連の取り組みを通して、自身の職業適性や学生と社会人の違いを認識し、働くことの目的と就職活動の目標を定め、必要となる基礎知識とビジネスマナーの基本などのスキルも身につける。</p> <p>事後研修として、研修レポートを作成し、提出する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>①仕事をする意義を理解する。②組織、業種、職種を理解し、必要なスキルを理解し、実習で実践できる。          &lt;実習&gt;単なる職場体験ではなく、自身のやりがいを感じる点、自身の長所と短所、行動の特徴などを実感することで、社会人としての働き方について理解する。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：オリエンテーション・事前指導Ⅰ（概論） 第2回：事前指導・マナートレーニングⅠ 第3回：事前指導・マナートレーニングⅡ 第4回：事前指導・働くことの意義 第5回：事前指導・社会人の心得 第6回：事前指導・観光産業（旅行業）の素晴らしさ 第7回：事前指導・観光産業（旅行業）の現状 第8回：実習先企業研究・業界研究Ⅰ 第9回：実習先企業研究・業界研究Ⅱ 第10回：実習先企業研究・業界研究Ⅲ 第11回：実習先企業研究・業界研究Ⅳ 第12回：事後指導・実習体験まとめ 第13回：事後指導・実習（研修）レポート作成 第14回：実習（研修）体験発表会 第15回：まとめ（総括）				
<b>【履修条件】</b>				
実習は欠席厳禁である。また事前指導の欠席も厳禁とする。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
実習先企業では、研修させていただくという意識を強く持ち、真摯な姿勢で取り組み、積極性を持って取り組むことが重要である。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
①実習先指導者の評価50% ②事前指導（各種課題や作業）基本的知識の理解20% ③事後の実習（研修）レポート30% 以上を総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
旅行業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本 中村恵二・榎木由紀子編著 秀和システム				
<b>【参考文献】</b>				
よくわかる旅行業界 橋本亮一（日本実業出版社）				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
観光政策論	前期	2単位	バロリ ブレンディ (2313研究室) E-mail : b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>はじめに中央省庁の観光関連政策の概要について説明する。そのあと、1945年以降の日本の観光政策を分析する。これを踏まえ、最近の国連や世界観光機関の動き、観光庁の誕生と施策、そして観光基本法を改定した観光立国推進基本法の趣旨について論ずる。</p> <p>そのあと、日本および外国の特定の観光政策の事例を取り上げる。</p> <p>なお、観光政策の実務家を外部講師として招待することもある。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
日本の観光政策を深く理解すると同時に、政府や自治体・民間企業の観光事業の推進に関する具体的な提言ができるようになってほしい。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：観光政策の定義と役割</p> <p>第3回：観光政策の目的と必要性</p> <p>第4回：観光政策と観光制度</p> <p>第5回：戦後における観光政策</p> <p>第6回：観光立国推進基本法</p> <p>第7回：観光立国推進基本計画 第1期</p> <p>第8回：観光立国推進基本計画 第2期</p> <p>第9回：観光政策の現状と課題</p> <p>第10回：国際観光政策の展開</p> <p>第11回：観光協力</p> <p>第12回：東京都における観光政策</p> <p>第13回：群馬県草津町の観光政策</p> <p>第14回：沖縄における観光政策</p> <p>第15回：まとめ</p>				
<b>【履修条件】</b>				
一年次の新潟県の観光と観光経営 I を受講した学生が対象となる。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>積極的に意見を述べたり、ディスカッションに参加したりすることは大事である。</p> <p>「○○新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されるので、目を通しておくとよいでしょう。」</p> <p>「○○センターには関連する最新情報が掲示されています。」などの、効果的な学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいです。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
課題レポート30% (各レポート15%×2回、期末試験50%、受講態度 20%)				
<b>【テキスト】</b>				
寺前秀一編著『観光政策論』原書房、2009年				
<b>【参考文献】</b>				
寺前秀一『観光政策・制度入門』ぎょうせい、2006年。				
その他、授業でレジュメを毎回、配布する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
韓国語Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	チュウ ジョンスク 朱 貞淑	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	外国語科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>韓国語を楽しく、生き生きと学べる。            テキストの本文と語彙を暗記し、書く練習をする。本文を応用し話す練習ができるようにする。ワークブックで学習内容の整理・問題を消化することによって各課の理解度を確認する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
挨拶、自己紹介、基礎的な日常のコミュニケーションができる。				
<b>【授業計画】</b>				
韓国語Ⅰ		韓国語Ⅱ		
第1回：ガイダンス、文字の復習		第1回：前期復習		
第2回：私は日本人です(1)		第2回：会社はどこにありますか(1) 語彙練習		
第3回：私は日本人です(2)		第3回：会社はどこにありますか(2) 文型や練習問題		
第4回：まとめとワークブック		第4回：まとめとワークブック		
第5回：日本人ではありません(1) 語彙練習		第5回：1課から5課までの復習		
第6回：日本人ではありません(2) 文型や練習問題		第6回：週末は何しますか(1) 語彙練習		
第7回：まとめとワークブック		第7回：週末は何しますか(2) 文型や練習問題		
第8回：それは何ですか(1) 語彙練習		第8回：まとめとワークブック		
第9回：それは何ですか(2) 文型や練習問題		第9回：K-POPから見る韓国文化		
第10回：まとめとワークブック		第10回：そんなに遠くありません(1) 語彙練習		
第11回：映画から見る韓国文化(1)		第11回：そんなに遠くありません(2) 練習問題		
第12回：映画から見る韓国文化(2)		第12回：まとめとワークブック		
第13回：約束があります(1) 語彙練習		第13回：いつ行きますか(1)		
第14回：約束があります(2) 文型や練習問題		第14回：いつ行きますか(2)		
第15回：まとめとワークブック		第15回：まとめとワークブック		
<b>【履修条件】</b>				
「アジア言語入門」を履修した者、又は、ハングルを学習した人が対象である。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
基礎をしっかり学ぶことが大事なので、一人一人きちんとチェックしながら進めるので欠席は禁物。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業への取り組み方、定期試験の結果から総合的に判断する。				
<b>【テキスト】</b>				
李志暎『できる韓国語Ⅰ』（DEKIRU出版）				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
基礎ゼミナールⅠ	通年	2単位	観光経営学部 教員	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>大学で学ぶために必要な基礎的なスキルズを育成する。具体的には、「読む」、「書く」、「調べる」、「発表する」能力を養成する。レポート・論文の書き方に焦点を当て、インテンシブな演習を行う。ことに、レポート・論文の要件と構成(序論、本論、結論)、テーマと問題の設定、本文の組み立て方、文章形式と文章表現を教える。また、資料・文献の検索と利用について説明する。口頭発表およびディベートの練習もする。クラスを編成し、各クラスの担任教員が担当して行う。ただし、共通の授業もある。</p>				
※基礎ゼミナールⅠの担当は、クラス担任として年間を通じて各学生の指導・相談を行う。				
<b>【到達目標】</b>				
大学生がレポートや論文を作成するため、そして口頭発表とディベートをするために必要な基礎的な知識とスキルズを得る。				
<b>【授業計画】</b>				
基礎ゼミナールⅠ				
第1回：ガイダンス				
第2回：レポート・論文の書き方1				
第3回：レポート・論文の書き方2				
第4回：レポート・論文の書き方3				
第5回：レポート・論文の書き方4				
第6回：口頭発表1				
第7回：ディベート1*				
第8回：レポート・論文の書き方4				
第9回：レポート・論文の書き方5				
第10回：レポート・論文の書き方6				
第11回 口頭発表 2				
第12回：レポート・論文の書き方 7				
第13回：レポート・論文の書き方8				
第14回：ディベート2				
第15回：総括				
(この授業計画は大枠を示し、各授業の詳細はクラス担任の教員が決める)。				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
与えられた課題に積極的に対応すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業中の課題への対応およびレポート・論文の全てを総合評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
河野哲也 「レポート・論文」の書き方入門 第3版 慶應義塾大学出版会2011				
<b>【参考文献】</b>				
教員ごとに適宜定める				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
基礎ゼミナールⅡ	通年	2単位	観光経営学部 教員	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>基礎ゼミナールⅠで獲得した基礎的なスキルズをさらに高めることを目的に、インテンシブな演習を行う。レポート・論文を書く練習を続ける一方、口頭発表およびディベートのノウハウに焦点を当てる。クラスを編成し、各クラスの担任教員が担当して行う。ただし、共通の授業もある。</p> <p>※基礎ゼミナールⅡの担当は、クラス担任として年間を通じて各学生の指導・相談を行う。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
口頭発表とディベートをするため、そしてレポート・論文を作成するために必要な基礎的な知識とスキルズを高めること。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>基礎ゼミナールⅡ</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：口頭発表1</p> <p>第3回：口頭発表2</p> <p>第4回：レポート・論文の作成1</p> <p>第5回：レポート・論文の作成2</p> <p>第6回：ディベート1</p> <p>第7回：ディベート2*</p> <p>第8回：レポート・論文の作成3</p> <p>第9回：口頭発表3</p> <p>第10回：口頭発表4</p> <p>第11回 ディベート3</p> <p>第12回：ディベート4</p> <p>第13回：レポート・論文の作成4</p> <p>第14回：口頭発表5</p> <p>第15回：総括</p> <p>(この授業計画は大枠を示し、各授業の詳細はクラス担任の教員が決める)。</p>				
<b>【履修条件】</b>				
原則として基礎ゼミナールⅠを受講した学生が対象となる				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
与えられた課題に積極的に対応すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
演習課題、レポートの全てを総合評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
河野哲也 「レポート・論文」の書き方入門 第3版 慶應義塾大学出版会2011				
<b>【参考文献】</b>				
教員ごとに適宜定める				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
キャリアデザインⅠ	後期	2単位	就職指導委員会	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>昨今、「勝ち組負け組」、「ワーキングプア」、「下流社会」など、世相を反映した新語が伝わっています。さらに、「ニート」や「フリーター」などは、長らく低迷する日本経済が抱える課題を象徴するものです。こうした社会をいかにして生き抜くかという現実、私たちが直面している悩ましき問題です。本講義は、キャリア形成に資する自己解決策を導くため、さまざまな角度から探り学習します。当然、就職はその重要なファクターです。</p> <p>キャリアデザインは、1年次は入門編、2年次は基本編、3年次は応用・実践編であり、体系的に学習します。指導は、学内教職員の域にとどまらず、学部上級生や卒業生および外部講師を招聘して多面的に展開します。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>キャリアデザインⅡは、3年間のキャリアデザインを通じた基本編に位置づけ、入門編であるキャリアデザインⅠの成果を確認し、実践編であるキャリアデザインⅢへの橋渡しとなる能力の涵養を目標とします。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>本講義で取り扱う内容は、おおむね次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自己プログレスレポートの受験と確認</li> <li>②テキストによる講義、外部講師の話聞くことにより進路に関する知識を深めます</li> <li>③履歴書・エントリーシートについての基本的な知識を得ます</li> <li>④SPIについての基本的な知識を得、Ⅲでの実際の受験に備えます</li> </ol> <p>第1回：ガイダンス・講義概要の説明 第2回 く</p> <p>第14回 第15回：まとめの学習</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
講義時間中にグループワークやレポートを記入する時間を取るので集中して参加してください。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
受講態度、提出物、試験の得点等を総合的に判断して行います。				
<b>【テキスト】</b>				
「Unicarrer 大学生の就活編」 ディスコ社				
<b>【参考文献】</b>				
随時指示します。				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
教養の自然科学	前期	2単位	<small>よこやま やすし</small> 横山 泰 (510研究室) E-mail: h-yokoyama@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>科学の発展が、衣、食、住そして情報通信などの快適性を大きく向上させました。しかしその代償として、環境、エネルギー、資源、人口、教育等の問題に取り組んでいくことが求められています。社会が持続可能な発展を遂げ、次世代により良く繋げるためには、現代社会を担う私たちの教養が問われる時代です。本講義では、身近なトピックスを手掛かりにして現代的な自然科学の諸問題についてわかりやすく論じます。それと同時に、高等学校段階までに学んだ理科分野の内容である慣性、物質の状態、化学反応、細胞など、自然科学の基礎についても学びます。</p> <p>従来の講義型式に加え、受講者による事前学習を前提としたアクティブ・ラーニングを取り入れて授業を行います。それらの学習を通じて自然科学の教養を深め、物理学、化学、生物学、地球科学等について幅広く学ぶことを目的とします。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>人間生活における自然科学の役割を認識し、科学的態度と教養を身につけること。            物理学、熱力学、化学、生物学、環境科学、地球科学に関する基礎的な能力を身につけること。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：科学の未来 『100年後の科学とは？』            第2回：生活と単位（単位） 『海外旅行の前にこれだけは知っておきたい、単位の違いとは？』            第3回：物理学（慣性） 『地球はなぜまわっている？日本の台風はなぜ左巻きなのか？』            第4回：物理学（熱と温度） 『90℃のお風呂は火傷するのに、90℃のサウナはなぜ火傷しないのか？』            第5回：物理化学（水の相図） 『アイススケートにおけるエッジの役割とは？』            第6回：物理化学（熱力学） 『アニメや漫画にでてくる“気”は熱い？痛い？』            第7回：物理化学（量子論） 『光とは？海と空はなぜ青いのか？』            第8回：化学（物質） 『プラスチックはどうやってつくるのか？』            第9回：生物化学（遺伝子） 『老化とは？』            第10回：生物学（古生物、生態学） 『アノマロカリスとは？進化とは？』            第11回：地球科学（地球の表面） 『海とは？大気とは？』            第12回：気象学（気象熱力学） 『地球温暖化問題とは？』            第13回：資源とエネルギー 『原子力発電とは？』            第14回：現代社会と科学 『未来のエネルギーとは？』            第15回：教養の自然科学総論 『科学的な考え方とは？』</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
履修者各自でプリント収集用のA4ファイルを用意することが望ましい。高等学校の各種理科の復習が講義内容の理解に役立ちます。本科目は公務員試験対策にも有益な内容です。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義課題、演習課題、レポート、試験の全てを総合評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
なし				
<b>【参考文献】</b>				
講義中で適宜定める。				

科目名	開講期	単位数	担当教員		
教養の文章理解Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	にしぎわ かずみつ 西澤 一光（407研究室） E-mail:nishiyam@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1	
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○			○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>人間の自己確立と成長は「出会い」「経験」「読書」の三要素で完成されていく。  この授業では「読書」の方法を学ぶ。「読書」で諸君の知を総合し、磨くのである。  「読書」で重要なのは、つねに「なぜ」という疑問をもちながら読んでいく姿勢である。  しかし、これができる人は、まれだ。衆愚はすぐに「ああ、そうなんだ」と言う。そこに真実を探そうとする姿勢はゼロである。だが、自分で調べようとしなない者は、他者の情報操作の餌食となる。諸君は「ええ？本当かなあ？」で行くべきだ。情報操作に乗って他の誰かに操られるということは、現代社会では致命的な結果を生む。諸君の頭脳は、自らの思考を展開するため、つまり、自由に考えるために与えられているのだ。</p> <p>前期は、情報操作を打破するための基本書・名著を読む。  後期は、学生が各自、経済・経営の理論書を選択して、その内容について報告できるようにしてもらう。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>①読書を通じて思考力をみがき、21世紀を生き延びる生活力をつける。  ②自分の意見を自在に表現し、充実した毎日を送れる人間となる。  ③原理原則を身につけ、仕事で成功できる人になる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
教養の文章理解Ⅰ			教養の文章理解Ⅱ		
第1回：序論1：現代世界の構造転換			第1回：序論1 豊かな国とは何か		
第2回：序論2：格差社会と学習の意義			第2回：序論2 経済概念の基礎知識		
第3回：「仕事で大切にしたいこと」1			第3回：序論3 日本の高度経済成長とその後		
第4回：発表と討論1			第4回：『日本の論点』1 憲法と自衛隊		
第5回：「仕事で大切にしたいこと」2			第5回：『日本の論点』2 基地問題		
第6回：発表と討論2			第6回：予備発表1		
第7回：平川克美1			第7回：『日本の論点』3 領土問題		
第8回：発表と討論3			第8回：『日本の論点』4 格差社会		
第9回：平川克美2			第9回：予備発表2		
第10回：発表と討論4			第10回：『日本の論点』5 人口高齢化		
第11回：孫崎享1			第11回：『日本の論点』6 おれおれ詐欺		
第12回：発表と討論5			第12回：『日本の論点』7 食料自給率		
第13回：孫崎享2			第13回：本発表1 各自のテーマ設定による		
第14回：発表と討論			第14回：本発表2 同上		
第15回：総合発表と相互評価会			第15回：本発表3 同上		
<b>【履修条件】</b>					
第1回および第2回の授業は、当然、両方とも出席すること。授業はすべて出席すること。無断欠席・無断遅刻は認めない。総じて、大人として行動し、授業の質の向上に貢献すること。					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
①最前列から順に着席する、②寝ている人、携帯をいじっている人は、即刻退室を命ずる、③止むなく欠席する場合には事前に連絡すること、④理由のない遅刻は、認めない。					
<b>【成績評価の方法】</b>					
試験は行わない。全出席が前提。平常の授業での発表（毎回）とパフォーマンスを総合的に判断して評価する。とくに授業をもちあげることに貢献できた学生を高く評価する。					
<b>【テキスト】</b>					
当方で作成して配布する。プレゼン資料は学生が作成する。					
<b>【参考文献】</b>					
随時、授業で紹介していく。					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
経営学の基礎	前期	2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘 (2314研究室) E-mail: yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>情報技術の発展と国際社会の激変が相俟って、経営学もダイナミックに進化するとともに複雑化の一途をたどっている。</p> <p>本授業では、経営学の入口に位置づけられる領域を取り扱い、できる限り最新の動向を取り入れつつ進めるよう心がける。</p> <p>前半は、初学者を対象として専門用語とキーワードの理解を中心に進める。</p> <p>後半は、時事ニュースやネットワークなどを通して伝えられるケースを取り上げ、これらの報道内容を咀嚼して理解し、事例の分析・考量をとおして経営学の基礎力を高める。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
授業をとおして得た専門用語や知識を、レポートやディスカッションで自在に使いこなすレベルを目指す。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：経営学の系譜とトレンド 第3回：地場産業の構造と地域の観光 第3回：基礎(1) 株式会社のしくみ 第4回：基礎(2) 会計と財務 第5回：基礎(3) 戦略と組織 第6回：基礎(4) 日本の経営・グループ経営 第7回：基礎(5) 情報の経済学 第8回：基礎(6) コーポレート・ガバナンス 第9回：企業の社会的責任 第10回：国際社会と経営環境 第11回：ビジネスとゲーム理論 第12回：イノベーション 第13回：知的資本の経営 第14回：観光振興と地域活性化 第15回：総括～企業経営を取り巻く環境と展望～				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
はじめが肝心！最初のうちは、初めて聞く用語の頻出に戸惑うかもしれないが、わからないところを後回しにせず、直ちに調べる癖をつけていただきたい。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
小テストおよび期末試験を総合して評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
開講時に指示する				
<b>【参考文献】</b>				
適宜紹介する				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
経営トップセミナー	後期	2単位	観光経営学部教員	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門選択科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>景気の回復感の乏しい今日、雇用の問題や消費の低迷などの諸問題を抱える経営環境下において企業の経営者たちは、いかなる考えを持ち、複雑化の一途をたどる社会に対応しようとしているのだろうか？</p> <p>こうした素朴な疑問について、自社のヒストリーから将来に向けたビジョンと戦略など、企業のリーダーが発するメッセージを拝聴します。</p> <p>具体的には、新潟のみならず全国のエクセレント・カンパニーのトップをお招きして、経営者に求められる脂質、商品・サービス開発の裏話、人材育成術、社会人としての心構えなどを独自の切り口でと語っていただきます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
経営者の生の声を聞くことで、就職や自己の未来に向けてのアイデンティティ確立の糸口を見出す。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：経営トップ人による講演①</p> <p>第3回：経営トップ人による講演②</p> <p>第4回：経営トップ人による講演③</p> <p>第5回：経営トップ人による講演④</p> <p>第6回：経営トップ人による講演⑤</p> <p>第7回：経営トップ人による講演⑥</p> <p>第8回：中間レポート</p> <p>第9回：経営トップ人による講演⑦</p> <p>第10回：経営トップ人による講演⑧</p> <p>第11回：経営トップ人による講演⑨</p> <p>第12回：経営トップ人による講演⑩</p> <p>第13回：経営トップ人による講演⑪</p> <p>第14回：経営トップ人による講演⑫</p> <p>第15回：まとめ講義、期末レポート</p>				
<b>【履修条件】</b>				
2年生以上の学生が対象となりますが、履修者以外の受講や1回のみ受講も事前の申し込みがあれば受け入れます。普段は聞けない経営者の生情報が聞けますので、履修する価値はあります。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>遅刻、私語、居眠り、携帯は厳禁。その他講師の方々に失礼になる行動は、一切禁止します。</p> <p>違反者には、足に退室を命じます。レポート作成のため、メモは必ずとるように。</p> <p>講師に質問するなど積極的な参加を期待します。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
2回のレポートを課します。何を学んだかを中心に記述してもらいます。講師の方々へ積極的に質問をした者は、プラスポイントを加点します。				
<b>【テキスト】</b>				
講師プロフィール(毎回配布)および講師持参の資料等(随時配布)				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
経済学	後期	2単位	<small>よしだ いちろう</small> 吉田 一郎 (307研究室) E-mail: yoshida@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>経済学の基本的な考え方や基礎的なことがらについて学んでいく。経済学とは資源配分の効率性、所得分配の公正性の2点を考える学問である。</p> <p>マクロ経済学とミクロ経済学のそれぞれ基礎的なことについて学習していくことにする。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を学ぶ。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：オリエンテーション 第2回：経済学の歴史 第3回：物価指数① 第4回：物価指数② 第5回：マクロ経済学 第6回：マクロ経済学 第7回：マクロ経済学 第8回：マクロ経済学 第9回：マクロ経済学 第10回：囚人のジレンマとレモンの理論 第11回：ミクロ経済学 第12回：ミクロ経済学 第13回：ミクロ経済学 第14回：ミクロ経済学 第15回：ミクロ経済学				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業は、欠席をしないよう心掛けて欲しい。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
定期試験を重視する。				
<b>【テキスト】</b>				
特に定めない。				
<b>【参考文献】</b>				
講義中に紹介していく。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
原価計算論Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	<small>おほさわ ひろゆき</small> 大澤 弘幸（503研究室） E-mail：ohsawa@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門選択科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>「原価計算」とは、主に物やサービスの値段を計算する仕組みについて研究する学問である。</p> <p>この科目の学習は、将来自ら製造業を営む者はもちろん、企業の経理部門や営業部門、経営者として活躍する上で必要な計数能力を養う上で重要である。</p> <p>本講義では、原価計算を初めて学習する人を対象として、原価計算の基礎を習得することを目標とする。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
原価計算に関する基礎的な知識を得ることが目標である。				
<b>【授業計画】</b>				
前期		後期		
第1回：前期ガイダンス		第1回：後期ガイダンス		
第2回：工業簿記と原価計算		第2回：工程別総合原価計算①初級		
第3回：材料費の計算①初級		第3回：工程別総合原価計算②応用		
第4回：材料費の計算②応用		第4回：組別総合原価計算①初級		
第5回：労務費の計算①初級		第5回：組別総合原価計算②応用		
第6回：労務費の計算②応用		第6回：等級別総合原価計算①初級		
第7回：経費の計算①初級		第7回：等級別総合原価計算②応用		
第8回：経費の計算②応用		第8回：総合原価計算における仕損の処理①初級		
第9回：個別原価計算		第9回：総合原価計算における仕損の処理②応用		
第10回：部門別原価計算		第10回：標準原価計算		
第11回：総合原価計算①初級		第11回：直接原価計算		
第12回：総合原価計算②応用		第12回：CVP分析①初級		
第13回：計算演習等①初級		第13回：CVP分析②応用		
第14回：計算演習等②応用		第14回：計算演習等		
第15回：前期まとめ		第15回：後期まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
簿記会計Ⅰ・Ⅱを履修済であることが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>座席を学籍番号によって指定し、出欠確認を厳しく行う。</p> <p>指定テキストを用意することが単位取得の最低条件である。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末試験及び課題の達成状況等により総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
滝澤ななみ著『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級工業簿記 第4版』TAC出版				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
現代社会と情報	後期	2単位	<small>よこやま ひろし</small> 横山 泰 (510研究室) E-mail : h-yokoyama@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>現代社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められます。情報社会に次いで、知識社会、共有知社会とも言われる現代では、生み出される新しい技術に対応して新しい能力が求められています。</p> <p>また、大学においては研究計画の立案、取材・情報収集、データ集計・統計処理、論文作成などの様々な場面で、情報リテラシーが求められます。すなわち、大学生にとって情報リテラシーは研究活動の基礎であるといえます。</p> <p>本講義では、情報モラル、情報分析、情報の科学的な理解、情報社会の諸問題など、情報を扱うための基礎知識をトータルに学びます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>現代社会における情報の役割を認識し、情報社会の諸問題について論じることができるようになること。情報の概念整理、構成、分析に関する基礎的な能力を身につけること。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：現代社会と情報概論 第2回：情報社会の位置づけと特徴 第3回：情報社会とコンピュータ『スマートフォンとコンピュータ』 第4回：情報社会とネットワーク 第5回：ネットワーク『集合知はなぜ成り立つのか』 第6回：現代社会のコミュニケーション『ソーシャルメディアのゆくえ』 第7回：情報の構成と発信・プレゼンテーション 第8回：情報とモデル『私たちが情報にいだく何か』 第9回：情報の探索『本当に知らないことは調べられない』 第10回：情報の判断『情報の真偽を見極める』 第11回：論理と演算『最も小さな情報』 第12回：メディアと情報『価値ある情報、騙されるとのこと』 第13回：科学的リテラシー『なぜオバケが怖いのか』 第14回：情報心理『なんとなく決めるということ』 第15回：現代社会の労働と情報				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>プリントを配布するので、履修者各自でプリント収集用のA4ファイルを用意することが望ましい。毎回出される課題の学習を含め、予習90分・復習90分の学習を必ず行うこと。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義課題、演習課題、レポート、試験の全てを総合評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
講義中で指定する。				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
現代社会と福祉	後期	2単位	<small>なかじま じゆん</small> 中島 純 (403研究室) E-mail: nakajima@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>障がい者(児)問題をテーマとする。わたしたち現代人の多くは「健常者」の視点から世界を見て価値観を形成し、市民生活を営んでいる。障がい者問題を視野に入れることで、人間や社会の見え方はどのように変わるのか、われわれが目指す方向軸を共生社会の実現に求めるなら、教養科目において福祉を学ぶことは知識よりも、暮らしの意識にはたらきかけるものとならねばならない。本講義では、誕生から、死に至るまでの人間のライフコースに沿うかたちで家庭や、教育、結婚、就労といった具体的な生活場面に即して障がいの問題を考えていく。障がい者にとって暮らしやすい社会は、障がいの無い者にとっても暮らしやすい社会である。受講学生の人生観や人間観に訴える授業にしたい。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
障がい者福祉の枠組みで社会と人間を見る視座を獲得する。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：オリエンテーション 第2回：出生前診断と先天異常 ノーマライゼーションについて 第3回：障がい児保育と家庭、地域社会 第4回：障がい児と学校(1) 学童保育 第5回：障がい児と学校(2) 特別支援教育 第6回：障がい児と学校(3) 特別支援学校と子どもの自立 前半 第7回：障がい児と学校(4) 特別支援学校と子どもの自立 後半 第8回：障がい児と学校(4) 障がい児の人権と就学保障 第9回：障がい者の就労支援(1) 自治体の取り組み 第10回：障がい者の就労支援(2) 企業の取り組み 第11回：障がい者の就労と自己実現 アートする障がい者 第12回：バリアフリー社会とノーマライゼーション 第13回：ユニバーサル・デザイン 第14回：共存共生社会の実現に向けて 第15回：ふりかえりとまとめ				
<b>【履修条件】</b>				
意欲的に学習に取り組む学生に限る。人間の尊厳と権利を学ぶ授業である。安易な単位取得のための履修は認めない。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業中の、私語の禁止、携帯電話の禁止、正当な理由なき遅刻、早退の禁止、飲食の禁止を徹底する。受講学生数は50名程度に制限する。第1回オリエンテーション時に課すレポートにより受講学生を選考するため、第1回欠席者の履修登録は原則として認めない。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末レポートを提出する。毎回の授業で感想レポートを提出する。学習態度とともに総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
指定なし。必要に応じてハンドアウト(教材プリント)を使用する。				
<b>【参考文献】</b>				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
コンピュータリテラシー応用Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：集中 Ⅱ：集中	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	<small>たきざわ けんいち</small> 滝沢 憲一(2309研究室)・ <small>おちあい じゅん</small> 落合 純(2303研究室) E-mail : k-takizawa@duck.niigataum.ac.jp E-mail : j-ochiai@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>コンピュータリテラシー応用では、コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱで習得した知識やスキルを発展させて、表計算ソフトの活用方法やデータの分析方法、文書の作成や管理方法、文献のまとめ方、情報処理の基礎的な素養などを実習形式で学ぶ。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>応用Ⅰ：VLOOKUP関数、ピボットテーブルの編集、ABC分析、パレート図などが活用できる。  具体的には、日商PC検定2級またはMOS エキスパート Part1程度の知識やスキルを身に付ける。  応用Ⅱ：ビジネス文書の基本を理解して作成できる。Officeを活用できる。  具体的には、日商PC検定2級またはMOS エキスパート Part1程度の知識やスキルを身に付ける。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
コンピュータリテラシー応用Ⅰ		コンピュータリテラシー応用Ⅱ		
第1回：ガイダンス	第1回：ガイダンス	第2回：文字書式の設定とスタイル適用	第2回：文字書式の設定とスタイル適用	第2回：文字書式の設定とスタイル適用
第2回：検索/行列の関数利用	第3回：さまざまな書式設定	第4回：差し込み印刷の実行と管理	第4回：差し込み印刷の実行と管理	第4回：差し込み印刷の実行と管理
第3回：日付/時刻の関数利用	第5回：フォームの作成と編集、フィールドの挿入	第6回：校閲用の文書の用意	第6回：校閲用の文書の用意	第6回：校閲用の文書の用意
第4回：論理関数の利用	第7回：文書の管理と共有	第7回：文書の管理と共有	第7回：文書の管理と共有	第7回：文書の管理と共有
第5回：高度な機能を使用したグラフ作成	第8回：ユーザー設定のWord要素の作成	第8回：ユーザー設定のWord要素の作成	第8回：ユーザー設定のWord要素の作成	第8回：ユーザー設定のWord要素の作成
第6回：ピボットテーブルの作成	第9回：索引・目次の作成	第9回：索引・目次の作成	第9回：索引・目次の作成	第9回：索引・目次の作成
第7回：ピボットグラフの作成	第10回：図表の参照・引用文献一覧の作成	第10回：図表の参照・引用文献一覧の作成	第10回：図表の参照・引用文献一覧の作成	第10回：図表の参照・引用文献一覧の作成
第8回：高度な条件付き書式やフィルターの適用	第11回：文書デザインの確認問題	第11回：文書デザインの確認問題	第11回：文書デザインの確認問題	第11回：文書デザインの確認問題
第9回：他言語やユーザー補助機能の使用	第12回：参考資料作成の確認問題	第12回：参考資料作成の確認問題	第12回：参考資料作成の確認問題	第12回：参考資料作成の確認問題
第10回：ブックの変更の管理	第13回：文書管理と共有の確認問題	第13回：文書管理と共有の確認問題	第13回：文書管理と共有の確認問題	第13回：文書管理と共有の確認問題
第11回：ブックのエラーの識別	第14回：ユーザー設定のWord要素の確認問題	第14回：ユーザー設定のWord要素の確認問題	第14回：ユーザー設定のWord要素の確認問題	第14回：ユーザー設定のWord要素の確認問題
第12回：関数についての確認問題	第15回：まとめ	第15回：まとめ	第15回：まとめ	第15回：まとめ
第13回：ピボットテーブルの確認問題				
第14回：グラフ作成の確認問題				
第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
<p>応用Ⅰ：コンピュータリテラシー基礎Ⅱの単位を修得していること。または担当教員が許可した者。  応用Ⅱ：コンピュータリテラシー基礎Ⅰの単位を修得していること。または担当教員が許可した者。</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>原則として、すべての実習に出席しなければ単位を修得できない。  前期の科目はコンピュータリテラシー基礎Ⅱ、後期の科目はコンピュータリテラシー基礎Ⅰの応用である。  コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を十分に復習しておくことが求められる。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<p>毎回の演習課題と、授業後に出す課題などによって総合的に評価する。無断欠席があると「不可」と評価する場合がある。</p>				
<b>【テキスト】</b>				
<p>適宜資料を配布する。</p>				
<b>【参考文献】</b>				
<p>開講時に指示する。</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：集中 Ⅱ：集中	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	<small>おちあい</small> <small>じゅん</small> <small>やぶした</small> <small>やすひろ</small> 落合 純(2303研究室)・藪下 保弘(2314研究室) E-mail: j-ochiai@duck.niigataum.ac.jp yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必 修	1
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱでは、パソコンの基本操作、Webの利活用、ワープロによる文書作成、表計算ソフトの活用方法、パソコンを利用した際のビジネスマナーなどを実習形式で学ぶ。            加えて、大学生として必要不可欠なコンピュータに関する操作スキルや知識をトータルで身に付ける。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>基礎Ⅰ：PCの基本操作、Webによる情報検索、Eメールの利用、Wordを使った文書作成ができるようになる。            具体的には、日商PC検定3級またはMOS程度の知識やスキルを身に付ける。            基礎Ⅱ：Excelの基本的な操作、初歩的な関数、グラフ作成などができるようになる。            具体的には、日商PC検定3級またはMOS程度の知識・スキルを身に付ける。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
コンピュータリテラシー基礎Ⅰ		コンピュータリテラシー基礎Ⅱ		
第1回：ガイダンス		第1回：ガイダンス		
第2回：メールの設定と活用・Webの活用		第2回：ワークシートやブックの作成と書式設定		
第3回：文書の作成と書式設定		第3回：ワークシートやブックの印刷と設定変更		
第4回：文書のオプションと表示の設定変更		第4回：セルとセル範囲へのデータ挿入と書式設定		
第5回：文字列や段落の挿入と書式設定		第5回：セルとセル範囲の並び替えとグループ化		
第6回：文字列や段落の並び替えとグループ化		第6回：テーブルの作成と変更		
第7回：表の作成と変更		第7回：テーブルのレコード抽出と並び替え		
第8回：リストの作成と変更		第8回：数式と基本的な関数		
第9回：文末脚注・脚注・引用文献の作成		第9回：条件付きの関数・文字列操作関数		
第10回：図表番号の作成		第10回：グラフの作成		
第11回：文書パーツや画像の挿入と書式設定		第11回：オブジェクトの作成		
第12回：図形やSmartArtの挿入と書式設定		第12回：表作成の確認問題		
第13回：文書と表作成の確認問題		第13回：数式・関数の確認問題		
第14回：図形の確認問題		第14回：グラフやオブジェクトの確認問題		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
受講者全員、「日商PC検定試験3級」または「MOS」合格を目標として、毎回の授業に取り組んでもらいたい。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末試験は行わず、毎回配布する宿題や授業時間内に出題されるパソコンを使った実技問題や確認テストの結果などにより総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
開講時に指示する。				
<b>【参考文献】</b>				
開講時に指示する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
財務会計Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	<small>おほさわ ひろゆき</small> 大澤 弘幸（503研究室） E-mail：ohsawa@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門選択科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本講義では、簿記原理により得た知識を発展させ、各種財務諸表すなわち貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の構造と、そのベースとなる会計原則について学習し、これらを作成または理解する方法について学習していく。</p> <p>基本的にはテキストを中心に講義を進めていくが、トピックとして時事的な会計事例を随時織り交ぜることにより、会計原則の変更が社会に及ぼす影響の大きさを理解して欲しい。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
財務諸表の作成とその内容を理解する基礎的な力を養成することが目標である。				
<b>【授業計画】</b>				
財務会計Ⅰ		財務会計Ⅱ		
第1回：前期ガイダンス		第1回：後期ガイダンス		
第2回：簿記と財務会計との関係		第2回：持分会計の基礎		
第3回：企業会計の基礎		第3回：持分会計①(負債)		
第4回：会計原則と会計基準		第4回：持分会計②(引当金)		
第5回：財務諸表の基礎①(P/L, B/S)		第5回：持分会計③(純資産)		
第6回：財務諸表の基礎②(キャッシュフロー計算書)		第6回：損益会計の基礎		
第7回：資産会計①(基礎)		第7回：損益会計①(収益)		
第8回：資産会計②(金融資産)		第8回：損益会計②(費用)		
第9回：資産会計③(棚卸資産)		第9回：損益会計③(認識と測定)		
第10回：資産会計④(固定資産・基礎)		第10回：損益会計④(費用と収益の対応)		
第11回：資産会計⑤(固定資産・応用)		第11回：法人税法会計・税効果会計		
第12回：資産会計⑥(繰延資産)		第12回：財務諸表分析の基礎		
第13回：資産会計⑦(臨時巨額損失等)		第13回：成長性と収益性の分析		
第14回：資産会計⑧(問題演習)		第14回：安全性と生産性の分析		
第15回：前期まとめ		第15回：後期まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
土台となる簿記会計の単位を取得していることが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>座席を学籍番号によって指定し、出欠確認を厳しく行う。</p> <p>テキストを用意することは単位取得の最低条件である。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義への参加状況、提出物、試験等により総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
『ベーシック企業会計 第2版』大沼宏・和田博志 編著 大澤弘幸他 著 創成社				
<b>【参考文献】</b>				
随時指定する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
財務諸表の見方・作り方	前期	2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘 (2314研究室) E-mail: yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ビジネス・パーソンに求められる三種の神器が「読み・書き・そろばん」から「英語・IT・財務」に変化したといわれて久しい。会計は「ビジネスのコモン・ランゲージ（共通言語）」ともいわれ、ビジネスにおいてはマナーと同じく最低限求められる素養になっている。ここにいう会計リテラシーこそが、「財務諸表の読み書き」にほかならない。企業経営の基本である、「資金を集める」「投資する」「利益を生む」という循環活動の成果を利害関係者に向けた説明や将来の事業計画の羅針盤として用いられる計算表が、「財務3表」すなわち「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュフロー計算書」である。</p> <p>学習の初期段階では、極めてシンプルなモデルを用いて各財務諸表の構造と機能の理解につとめる。終盤のケース・スタディ「企業・業界比較」においては、電子開示システム「EDINET」から受講生が関心を持つ企業の有価証券報告書を各自で入手し、現実社会のデータを用いながら財務分析の初歩を学ぶ。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
財務3表を理解し、企業が発信する財務情報・IR情報の本質を読み解けるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 会計情報と会計の役割、財務諸表の種類 第2回：財務諸表を作る(1) 勘定科目と仕訳、決算 第3回：財務諸表を作る(2) 複式簿記にもとづく財務3表の連絡体系 第4回：財務諸表を見る-貸借対照表(1) 貸借対照表の構造と内容 第5回：財務諸表を見る-貸借対照表(2) 資産概念、区分、経過勘定、評価 第6回：財務諸表を見る-貸借対照表(3) 負債概念と意義、負債の区分と内容、純資産の分類と項目 第7回：財務諸表を見る-損益計算書(1) 計算書の様式と構造、損益計算のルール、売上原価の算定 第8回：財務諸表を見る-損益計算書(2) 減価償却費、引当金 第9回：財務諸表を見る-損益計算書(3) 販売費および一般管理費、段階利益の意味 第10回：財務諸表を見る-キャッシュフロー計算書 様式と区分、間接法・直接法、財務2表との連絡 第11回：経営分析 構成比率分析、百分比率分析、収益性の分析、安全性の分析 第12回：企業・業界比較(1) 決算書の入手 第13回：企業・業界比較(2) 経営分析、戦略理解 第14回：企業・業界比較(3) 総合分析 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
日商簿記3級程度の知識を要する				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
毎回の講義で電卓を用いる（必須）。 本講義は、関連する応用科目「財務会計論」「経営分析論」への足掛かりとなる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
小テスト（60%）+中間テスト（20%）+期末テスト（20%）で評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
なし ただし、授業時に配布するプリントを用いて講義をすすめる				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
宗教学	後期	2単位	<small>てらさき けいどう</small> 寺崎 敬道 E-mail : nikeidai@ybb.ne.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>現代の日本では、宗教は否定的にとらえられることが少なくない。しかし、人間と宗教のかかわりは長い歴史を持つ。意識しているかどうかは別として、宗教心を持たない人間はおらず、したがって社会のあらゆる場面で宗教現象が観察される。</p> <p>その上、国際化によって多様な文化が交錯し、人間の相互理解のプロセスはますます複雑さを増している。自分は宗教を信じていないからといって、宗教のことを知らない、ではすまされなくなってきていることは明白である。自分の文化についての認識を深め、同時に他の文化を理解し受け入れるためには、宗教に対する視点をより広く深くしていかなければならない。</p> <p>このような視点から、この講義では、これまでの研究の蓄積を紹介し、宗教現象に近づくための基本的な考え方を示すとともに、現在の宗教学が格闘している問題にも触れていく。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
宗教に関する基本的な知識を理解し、自分なりの宗教観を持つ。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：宗教学の歩み 第2回：社会の変化と宗教 第3回：宗教心理と宗教思想 第4回：社会構造・文化形式と宗教 第5回：宗教的表象の解読 第6回：宗教現象のフィールドワーク 第7回：オリエント宗教の展開 第8回：インド宗教の展開(1) 第9回：インド宗教の展開(2) 第10回：イスラームの時代 第11回：東アジアの中国宗教(1) 第12回：東アジアの中国宗教(2) 第13回：日本の伝統宗教 第14回：日本の庶民仏教 第15回：新新宗教をめぐる諸問題				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
私語・飲食をせず、真剣に講義を受けること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
試験の点数によって判定する。				
<b>【テキスト】</b>				
特になし				
<b>【参考文献】</b>				
授業時に紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
宿泊関連産業実習 I	前期	2単位	<small>でぐち たかやす</small> 出口 高靖 (2311研究室) E-mail: t-deguchi@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>訪日外国人旅行は、2015年には1970万人を超え、2020年には4000万人の政策目標を掲げ、宿泊産業（ホテル、旅館、民宿等）も大きく変革しようとしている。ホテル・旅館等における代表的な業務を見ると、宿泊部門（フロント・コンシェルジュ・ハススキーピング等）、料飲部門（ウエイター・ウエイトレス・ルームサービス）、宴会部門（婚礼・イベント等）、営業部門、管理部門の多岐にわたっている。このホテル・旅館での多岐にわたる仕事を体験することは、この仕事を通じて多くの人々に会え、人とのコミュニケーションを取ることの楽しさや、やりがいを感じられます。</p> <p>さらに、お客様と信頼関係を築ければ、「スタッフ」と「お客様」という枠を超えて、人間同士の深い絆なども生まれる可能性もあります。この経験で、人の大切さ、暖かさを感じることができます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宿泊産業（ホテル・旅館・民宿等）の宿泊・料飲・宴会等の業務内容を知る。</li> <li>2. 接客業務に必要な人間性、コミュニケーション能力、ホスピタリティを取得する。</li> <li>3. 実習を通して、多様化するサービス、国際感覚を経験する。</li> </ol>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：オリエンテーション 第2回：現場実践学習 第3回： // 第4回： // 第5回： // 第6回： // 第7回： // 第8回： // 第9回： // 第10回： // 第11回： // 第12回： // 第13回： // 第14回： // 第15回： ふりかえり				
<b>【履修条件】</b>				
現場（ホテル）で、職業としての体験を行うので、社会の規律・規範を意識すること。 社会体験に意欲を持つこと。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<b>【テキスト】</b>				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
宿泊産業論	前期	2単位	<small>でぐち たかやす</small> 出口 高靖 (2311研究室) E-mail: t-deguchi@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>宿泊産業（ホテル・旅館・ペンション・民宿等）は、旅行産業の重要な役割を果たしており、その現状、概要、組織と機能、経営の実態、社会的意義の役割を学びます。</p> <p>宿泊産業では、旅館・ホテルを含む全体の現状と未来戦略を学習しますが、特にホテルビジネスについては、その運営形態、マネジメントを学び、併せて、ホスピタル産業としての側面から、ホテル業のサービスの実態についても学習します。</p> <p>さらに、社会及び経済環境の変化が、国民の宿泊動向に影響を及ぼし、宿泊産業にどのような変化をもたらしたかを学びます。学んだ知識を基に、具体的なホテル・旅館を取り上げ、各項目から調査・分析して、ワークショップを行います。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宿泊産業の現状と戦略を把握します。</li> <li>2. 宿泊産業の役割と未来戦略を理解します。</li> <li>3. 社会経済・環境経済の変化が宿泊産業の変化におよぼす影響とその要因を取得します。</li> <li>4. 習得した知識を基に、宿泊施設を分析し、新たな企画提案します。</li> </ol>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：宿泊施設とは 第3回：宿泊施設の概要 第4回：宿泊施設の現状 第5回：宿泊産業の構造 第6回：宿泊産業のチェーンについて 第7回：宿泊産業（ホテル業）の営業基盤（宿泊・飲食・宴会等） 第8回：宿泊産業とホスピタリティ力とは 第9回：宿泊産業の経営について① 第10回：宿泊産業の経営について② 第11回：宿泊産業の今後の役割 第12回：宿泊産業（ホテル）の事例発表① 第13回：宿泊産業（旅館・民宿）の事例発表② 第14回：宿泊産業のイノベーションと戦略 第15回：まとめ「宿泊産業の役割と繁栄の戦略」				
<b>【履修条件】</b>				
特に定めない。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
宿泊産業における課題を、予習時に見つけて、次回で議論します。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業態度、レポート、定期テストにより総合的に評価します。				
<b>【テキスト】</b>				
徳江順一郎著 「ホテルと旅館の事業展開」 創成社				
<b>【参考文献】</b>				
中村恵二「最新ホテル業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本（第3版）」株式会社 秀和システム 田尾桂子「ホテル経営」白桃書房 牧野知宏「民泊ビジネス」祥伝社				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
心理学	前期	2単位	<small>さ さ き ひろゆき</small> 佐々木宏之 E-mail : sasaki@niigatachuoh-jc.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>基礎心理学の諸問題を概観し、意外なまでに知らない自分自身の心の振る舞いと、つい自分の常識で測ってしまうと見誤る他者の心の振る舞いについて理解する。各テーマにおいて、簡単な実験やデモンストレーションをふまえることで、心理学の基礎について理解を深める。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>心理学の基礎を学び、自分の心理を理解する。            心理学の基礎を学び、他者の心理を理解する。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>前期            第1回：オリエンテーション            第2回：心理学の歴史的背景と研究法            第3回：感覚・知覚—心の入り口            第4回：顔の認知—人物同定と表情認識            第5回：注意と意識—意識の3つのレベル            第6回：記憶—短期記憶と長期記憶            第7回：学習—条件付け・学習の転移・学習法            第8回：欲求・動機づけ—生理的欲求・社会的欲求            第9回：感情—基本感情とその発達・感情の理論            第10回：対人社会心理学—自己知覚・他者認知            第11回：対人社会心理学—印象形成と印象操作            第12回：集団社会心理学—同調・服従・内面化            第13回：性格—性格の理解            第14回：性格—性格の測定            第15回：知能—知能の理論と測定</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
特になし。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
定期試験で評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
配布資料を用いる。				
<b>【参考文献】</b>				



科目名	開講期	単位数	担当教員		
スポーツ&レジャー 《アウトドアクラス》	夏季・冬季 のいずれか	夏季・冬季 ともに2単位	<small>すぎうら ぜんじろう</small> 杉浦 善次郎 (404研究室) E-mail: sugiura@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1	
対象入学年度					
平成28年度 ○			平成29年度 ○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>レジャー活動として幅広い年代に親しまれているアウトドアスポーツを体験し、技能や知識を習得するとともに、健康増進や生き甲斐に繋がる可能性を理解し、自ら企画運営できる能力の習得を目指す。</p> <p>夏季はキャンプ及び水辺活動を、冬季はスキー・スノーボードを実施する。</p> <p>本科目は必修科目のため、夏季もしくは冬季のいずれか片方を履修し、他方を選択科目「アウトドアスポーツ」(2単位)として履修することにより夏季・冬季の両方の履修が可能となる。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
アウトドアスポーツの体験を通じて、技術や知識を獲得する。また、地域資源を活用したスポーツ・ツーリズムについて理解できるようになる。					
<b>【授業計画】</b>					
夏季			冬季		
ガイダンス(1時間)			ガイダンス(1時間)		
野外活動の基礎理論講義(1時間)			事前講習(1時間)		
安全管理の講義(1時間)			現地実習(3泊4日) 志賀高原		
現地実習(2泊3日) みなかみ			スキーもしくはスノーボード実技及びビデオクリニック		
野外炊事					
オリエンテーリング・ウォークラリー					
工作					
ラフティング及びキャニオニングもしくはカヌー					
パラグライダー					
フィールドゲーム					
<b>【履修条件】</b>					
特になし					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
<p>実習費が必要である。</p> <p>活動に適した服装や準備する用具についての詳細はガイダンスで説明する。</p>					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%。					
<b>【テキスト】</b>					
なし					
<b>【参考文献】</b>					
なし					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《球技クラス》	前期	2単位	スポーツマネジメント学科教員	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>各種の球技を体験し、スポーツ活動に親しむ技能や態度を習得するとともに、現代社会においてスポーツをレジャー活動の一つとして生活に取り入れることの意義と必要性を理解し、そのための行動の仕方を身につけることを目指す。具体的には、以下の種目から、自己の興味・関心に応じて選択し履修する。</p> <p>屋外種目：サッカー、テニス、ソフトボール 屋内種目：バスケットボール、卓球、バドミントン</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>ルール、用具、歴史などの知識を獲得し、運動技能を高め、ゲームを楽しむことができるようになる。さらに運動習慣の確立を通じて、健康の保持増進と体力の維持向上を図ることができる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス・クラス分け 第2回：基礎技術の練習(1) 第3回：基礎技術の練習(2) 第4回：集団技術・フォーメーション練習(1) 第5回：集団技術・フォーメーション練習(2) 第6回：ゲーム 第7回：ゲーム 第8回：ゲーム 第9回：ゲーム 第10回：ゲーム 第11回：ゲーム 第12回：ゲーム 第13回：ゲーム 第14回：ゲーム 第15回：総括</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
各種目の実施に適した服装及びシューズを着用すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%の比率で評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
なし				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《太極拳クラス》	前期	2単位	つちが 土賀 秀敏、はたの 波多野 久子、 はしがわ 長谷川 かずみ	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>太極舞(拳)の動作は、ゆっくり、ゆったりと動かすので身体に無理をかけず、内臓にも大変よく理にかなった優れた健康法の1つです。</p> <p>舞うだけでスロトレ効果(筋肉増量)、片足立ち効果、腹式呼吸、腹圧効果、伸筋効果があります。</p> <p>太極舞(拳)を通して感謝の心を忘れず、人と争わず、仲間との和を大事にして自分の花を咲かせていきます。</p> <p>簡化24式の型を、自然立ち、呼吸法、ストレッチと共に順次楽しみながら学んでいきます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太極舞(拳)24式の中から野馬分鬚(2)単鞭(9・11)蹬脚(13・15)はマスターする。</li> <li>・理にかなった力の使い方を学び、動きなどをストレッチ(例えば腹筋では反動をつけないで5回起き上がる)等を通じ体得する。</li> </ul>				
<b>【授業計画】</b>				
24式太極舞(拳)を1回に2つの型を進める(12回で24式終了)				
第1回：十字手・(1)起勢 (キセイ)	(2)野馬分鬚 (ノマアシノウ)	ストレッチ		
第2回：(3)白鶴亮翅 (ハッカクリョウシ)	(4)楼膝拗歩 (ロウシツヨウホ)	〃		
第3回：(5)手揮琵琶 (シュキビワ)	(6)倒捲肱 (トクケンコウ)	〃		
第4回：(7)左攢雀尾 (ヒダリランジャクビ)	(8)右攢雀尾 (ミギランジャクビ)	〃		
第5回：(9)単鞭(右) (ヒトエムチ)	(10)雲手 (ウラシテ)	〃		
第6回：(11)単鞭(左) (ヒトエムチ)	(12)高探馬 (コウタンマ)	〃		
第7回：(13)右蹬脚 (ミギトウキヤク)	(14)双峰貫耳 (ソウホウガンジ)	〃		
第8回：(15)轉身左蹬脚 (テニンヒダリトウキヤク)	(16)左下勢独立 (ヒダリカセイドクリツ)	〃		
第9回：(17)右下勢独立 (ミギカセイドクリツ)	(18)左右穿梭 (サユウノセンサ)	〃		
第10回：(19)海底針 (カイテイシン)	(20)閃通臂<前と後> (センツウヘイ)	〃		
第11回：(21)搬攔捶 (バンランツイ)	(22)如封似閉 (ジョウフウジヘイ)	〃		
第12回：(23)十字手 (ジュウジテ)	(24)収勢 (シュウセイ)	〃		
第13回：24式総復習	〃			
第14回：24式を舞う	〃			
第15回：前期末レポート	〃			
<b>【履修条件】</b>				
動きやすい服装を着用(例えばトレーニングウェア等)				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
素足で行なうので靴は不要、靴下着用OK マット、タオル				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業態度、出席状況、レポートで総合的に評価				
<b>【テキスト】</b>				
なし				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
スポーツ&レジャー 《ダンスクラス》	前期	2単位	<small>なかじま たかこ</small> 中島 孝子 E-mail : takako720@hotmail.com	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ダンスは他のスポーツとは一味違った側面を持っている。美的要素が強く非常に芸術的で感性のスポーツともいえる。この授業ではこういったダンスを多方向からとらえ、音楽に合わせてリズムカルに楽しく踊るレクダンスやジャズ・チア・エアロビックダンスからHIPHOPのような個性的なリズムのダンス、さらには人と関わるコンタクト・インプロビゼーションなども取り入れたコミュニケーションダンスまで、様々なダンスを経験する中でスポーツにおける芸術的要素を見極める眼を養っていきたい。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
様々な音楽に合わせてリズムカルに生き生きと踊ることができる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：リズムカルなダンスを踊ろう①（レクダンス） 第2回：リズムカルなダンスを踊ろう②（チアダンス） 第3回：エアロビックダンスを踊ろう① 第4回：エアロビックダンスを踊ろう② 第5回：ミュージカル公演ダンス鑑賞 第6回：ミュージカルのワンシーンを踊ろう 第7回：HIPHOPダンスを踊ろう① 第8回：HIPHOPダンスを踊ろう② 第9回：コンタクトインプロビゼーションダンス① 第10回：コンタクトインプロビゼーションダンス② 第11回：ショートストーリー・ダンス①（テーマ） 第12回：ショートストーリーダンス②（モチーフ） 第13回：ショートストーリーダンス③（フレーズ） 第14回：チームごとに踊り込み・発表 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
動きやすい服装で、毎時間筆記用具・タオル・スポーツドリンクなどを用意すること 初心者大歓迎。何より授業への積極的な参加を望みます。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業の出欠席状況・授業への意欲・個人ノートへの記入内容など総合的に判断して評価します ダンスのテクニックよりも、どれだけ生き生きと踊れているかを評価します。				
<b>【テキスト】</b>				
なし。必要に応じてプリント配布。				
<b>【参考文献】</b>				
同上				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
セレモニー産業論	前期	2単位	<small>でぐち たかやす</small> 出口 高靖 (2311研究室) E-mail: t-deguchi@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>少子化、晩婚化、非婚化による婚礼ビジネス市場の縮小は、人口の動向からみて避けられません。特に、セレモニーにおける婚礼ビジネスの未来戦略においては、顧客ニーズの多様化・細分化が進み、顧客の好みに応じたイベント・プロデュース能力が求められています。</p> <p>一方、葬祭ビジネスは、団塊の世代が、75歳に達するまでは、伸長するものの、それ以降は、飛躍的に減少となっている。これらを踏まえて、式場や葬祭場を「場所」という捉え方をして、その利用方法を検討することによって、所有から利用への発想の展開を行います。</p> <p>これからの新たなセレモニービジネスとしての活用を議論していきます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セレモニー（儀式）全体の歴史と現代人にとっての位置づけを理解します。</li> <li>2. 婚礼と葬祭の市場とその考慮すべきホスピタリティを知ります。</li> <li>3. 婚礼・葬祭ビジネスの新たな未来戦略を提案します。</li> </ol>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：セレモニーの環境 第3回：セレモニーの歴史 第4回：セレモニー（婚礼ビジネス）の市場 第5回：セレモニー（婚礼ビジネス）における関連業務 第6回：セレモニー（婚礼ビジネス）の販売 第7回：セレモニー（婚礼ビジネス）における人材 第8回：セレモニー（婚礼ビジネス）の未来戦略 第9回：セレモニー（葬儀ビジネス）の市場 第10回：セレモニー（葬儀ビジネス）における関連業務 第11回：セレモニー（葬儀ビジネス）の未来戦略 第12回：セレモニービジネスの新たな活用方法① 第13回：セレモニービジネスの新たな活用方法② 第14回：セレモニービジネスの提案① 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
予習時に課題を見つけて、次回で議論します。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業態度、レポート、定期テストにより総合的に評価します。				
<b>【テキスト】</b>				
授業で随時指定します。				
<b>【参考文献】</b>				
徳江順一郎「ブライダル ホスピタリティマネジメント」創成社				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
地域と観光	通年	2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘 (2314研究室) E-mail: yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門選択科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○				
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本授業は、地域活性化や観光振興に関する基礎能力を養うため、まちづくりの理論、村おこしの理論、ルーラル・ビジネスの理論および地域と観光の理論を学んだ後に、斯界の先達である特別客員教授および地域の実践者からケーススタディを聴講します。</p> <p>また、本授業は既設科目を補完し、本学部のカリキュラムの特徴である理論と実践とのバランスの充実を図りつつ、地域観光の実態および地域振興と観光促進との関連性についての理解を深めます。</p> <p>なお、本講義の実践ケーススタディは一般公開講座として開放し、学生諸志が地域住民とともに机を並べて学び、意見を交換する地域コミュニティの場としての機能も果たします。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
地域観光資源のポテンシャルズに関する気づきが芽生える。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回 ガイダンス 第2回 まちづくりの理論 第3回 実践ケーススタディ1 「UF0でまちおこし」 第4回 実践ケーススタディ2 「名利(妙成寺)国宝化プロジェクト」 第5回 村おこしの理論 第6回 実践ケーススタディ3 「限界集落からの脱却」 第7回 実践ケーススタディ4 「農業発の地域イノベーション(自然栽培-奇跡のりんご)」 第8回 中間まとめ 第9回 ルーラル・ビジネスの理論 第10回 実践ケーススタディ5 「田舎学」 第11回 実践ケーススタディ6 「里山産業論」 第12回 地域と観光の理論 第13回 実践ケーススタディ7 「観光資源の発掘(商品開発)」 第14回 実践ケーススタディ8 「観光資源の発掘(歴史・文化)」 第15回 総括 ※講演内容が一部変更となる場合もあります				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
講義は、平日の時間割に組み込まれて開講しません。 したがって、土日祝日または5限目以降の開講となる場合もありますので留意ください。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
提出課題により評価します				
<b>【テキスト】</b>				
なし ただし、授業時にプリントを配布する場合があります。				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
地域とビジネス I	前期	2単位	<small>こんどう まさゆき</small> 近藤 政幸 (2305研究室) E-mail: m-kondo@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>地域では市町村合併と地方創生を契機にして、独創的な取り組みが目立ってきた。都市部と異なり、地域だからこそ可能な地域発ビジネスが立案され、中山間地でも目立つビジネスが増えてきた。</p> <p>地域では「都市との連携」、「都市と農山村の交流拠点」を地域方向性に掲げて、自らの内発的発展論にもとづき都市部とグローバル市場を見据えての地域発連携ビジネスが拡大している。</p> <p>講義では、都市部の諸問題を対比させながら、①地域振興の考え方、②メカニズム、③地域産業とツーリズム振興を産業再生としてみていく。超高齢化社会とグローバル化が進む中、地域産業や農山漁村における産業の自立、地域づくりについて考えていきたい。地域の具体的な取り組みを事例研究として展望していく。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>高齢化と少子化、人口減に向かう地域にて、地域産業振興の主要政策と地域発ビジネス他の仕組みを理解できるようになる。主として体験型観光事業、地域発ビジネス他。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：地域振興の考え方・ガイダンス            第2回：地域産業政策と観光政策の流れ            第3回：中山間地域の産業化と自立（1）            第4回：中山間地域の産業化と自立（2）            第5回：地域ブランドと社会的役割の企業            第6回：地域ブランドとツーリズム            第7回：創造的地域社会のキーワード            第8回：ふりかえり（中間テスト）            第9回：地域ビジネスとプラットフォームの役割            第10回：インバウンドと地域ビジネス（1）            第11回：インバウンドと地域ビジネス（2）            第12回：日本型グリーンツーリズムと地域ビジネス            第13回：地域ビジネスに到る価値連鎖、資源と商品            第14回：地域ビジネス、循環と再投資            第15回：まとめ（発表）</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
「世界市場」と「まち・むら」を結びつけた商品開発・交流事業創出に関心をもって臨むこと				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義中の小レポート提出、30%、期末試験による評価40%、中間テスト30%				
<b>【テキスト】</b>				
『創造的地域社会 中国山地に学ぶ超高齢化社会の自立』松永桂子（2012）新評論				
<b>【参考文献】</b>				
『「食」の地域ブランド』関満博・遠山博編（2009）新評論				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
地域とビジネスⅡ	後期	2単位	<small>こんどう まさゆき</small> 近藤 政幸 (2305研究室) E-mail: m-kondo@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>今世紀に入りニューツーリズムの台頭と共に、全国各地に「着地型観光」の事業が拡大して地域主体の観光が発信されるようになった。地域では、地域資源の商材化、観光商品開発と販路開拓、運営と地域還元に到る、優れた着地型観光組織も出現している。しかし持続可能性という経営と環境視点で捉える着地型観光組織の存在は少ない。当講義では地域が主役の着地型観光のプラットフォームの概念と特徴をもって議論を展開していきたい。各地DMOが地域の確かなビジネスモデルの礎になる事例研究も進めていきたい。</p> <p>国の観光立国宣言以来13年経過して着地型観光を推進する地域側には様々な課題が明らかになってきた。</p> <p>1) マーケティング機能強化、2) 地域観光組織の経営的な脆弱性、3) 一元的マネージメントの必要性、4) 着地側合意形成等である。</p> <p>本講義の目的は、着地型観光の価値提案を推進する組織が、経営的に自立的に持続運営できる観光地マーケティングの仕組み、価値連鎖を習熟することにある。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>着地型観光の地域ビジネスとしての着地型観光マーケティングの基本要素の理解と説明ができる。            学生による着地型観光組織が持続可能な運営ができる事業提案の企画書ができる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：マスツーリズムの功罪とイノベーション 第3回：着地型観光とニューツーリズム、観光政策転換 第4回：ニューツーリズムに果たす着地型観光の役割 第5回：DMO着地型観光組織のマーケティングの意義と効用 第6回：着地型観光組織の分類と役割 第7回：着地型観光の事例研究（1） 第8回：着地型観光の事例研究（2） 第9回：振り返り（中間テスト） 第10回：着地型観光のマーケティング 事例付 第11回：着地型観光のマネージメント 事例付 第12回：地域ブランディング 第13回：中核人材育成と仕組み、価値と価値連鎖流れ 第14回：課題発表（地域活性化の企画書プレゼンテーション） 第15回：まとめ期末テスト				
<b>【履修条件】</b>				
特にない。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
①本講義では、民間の着地型観光組織の経営・運営事例や行政による観光振興事例を2回に1回取り上げる ②事例の感想レポートを求める。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義に応じて小レポート（30%）と中間テストを提出する。これが評価の30%、期末試験が40%である。				
<b>【テキスト】</b>				
『着地型観光が持続可能性を獲得する経営的条件 - 着地型観光組織DMOのバリューチェーン - 』近藤政幸著（2017年7月発行予定）				
<b>【参考文献】</b>				
『地域プラットフォームによる観光まちづくり』大社 充（2013）学芸出版社 『観光地経営の視点と実践』公益財団法人日本交通公社（2014）丸善 『これでわかる着地型観光』尾家健生編・近藤政幸共著（2008）学芸出版社				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
地誌	前期	2単位	<small>さわぐち しんいち</small> 澤口 晋一 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>地誌(学)は地理学の一分野であるが、地理学が他の科学と同様に一般化を目的とするのに対し、地誌はその地域を地域たらしめている原因を地理学的手法に基づいて調べることによって、その地域固有の特徴を明らかにすること(特殊化)を目的とする。この講義では、新潟(県)の地誌について、主に自然地理的な観点から解説する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
新潟の地誌の特徴の把握し、その地域の自然が自分たちの生活に密接に結びついていることを理解する。				
<b>【授業計画】</b>				
前期				
第1回：地図を描く(頭の中の地図)				
第2回：講義の目的。地理学と地誌(学)との関係について				
第3回：日本列島の自然(地形、気候、植生)				
第4回：新潟の自然概観①(地形・地質)				
第5回：新潟の自然概観②(気候・植生)				
第6回：越後平野の形成史				
第7回：越後平野の沖積地形とその分布				
第8回：越後平野の地形と土地利用①				
第9回：越後平野の地形と土地利用②				
第10回：新潟市の発展と土地利用および都市水害との関係				
第11回：地元を調べる(レポート解説)				
第12回：新潟海岸の海岸侵食と飛砂				
第13回：新潟地震における被害と土地条件				
第14回：新潟の変動地形①(活断層とその分布)				
第15回：新潟の変動地形②(長岡平野西縁断層帯の地形)				
<b>【履修条件】</b>				
<p>毎年のことですが、授業中の私語、飲食、携帯使用、睡眠が非常に目立ちます。こうした行為はまじめに授業を受けたいと思っている人への妨害行為でもあるということをぜひ認識してください。大学生としての自覚をもち、しっかりと授業に参加したい人の受講を求めます。</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>みなさんの生活の舞台である新潟の自然について、特に越後平野を題材に説明します。身近な地域のことを様々なスケール(時間・空間)で取り扱いますので、興味を失わず受講してくれることを期待します。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
レポートと定期試験により評価				
<b>【テキスト】</b>				
なし(授業毎に資料を配布)				
<b>【参考文献】</b>				
講義時に適宜紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
中国語Ⅰ・Ⅱ(観光学部)	Ⅰ:前期 Ⅱ:後期	Ⅰ:1単位 Ⅱ:1単位	<small>うめだ じゅんこ</small> 梅田 純子 E-mail: umeda@ecole-i.net	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	外国語科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>基本的文法事項を確認するとともに、会話力をつけることを目的とする。そのために、アクティビティや映像をふんだんに使用した授業を行う。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、正しい発音ができる。</li> <li>2、簡単な会話ができる。</li> <li>3、基本的文法事項を理解する。</li> </ol>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス		第1回：前期の復習		
第2回：発音①音節、声調		第2回：連動文		
第3回：発音②母音、複母音		第3回：希望や願望の表現		
第4回：発音①子音		第4回：動詞「有」		
第5回：発音②子音		第5回：動詞「在」		
第6回：動詞「是」の使い方		第6回：数字		
第7回：色々な疑問文		第7回：年月日、曜日		
第8回：名前の聞き方、答え方		第8回：助動詞（しなければならない）		
第9回：まとめ		第9回：まとめ		
第10回：中国語の歌①		第10回：形容詞の文		
第11回：中国語の歌②		第11回：時刻の言い方		
第12回：食べ物について		第12回：お金の言い方		
第13回：動詞の文		第13回：量詞		
第14回：選択疑問文		第14回：中国事情		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
コミュニケーション重視の授業であるため、積極的に参加すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業への取り組み方、出席状況、定期試験により総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
『いま始めよう！アクティブラーニング』陳淑海著、朝日出版社、ISBN978-4-255-45272-2、2,400円				
<b>【参考文献】</b>				
必要に応じ授業中に提示する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
地理学	前期	2単位	<small>さわぐち しんいち</small> 澤口 晋一 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>地理学は、自然地理学と人文地理学とに二分される。前半は自然地理学の視点から地形、気候、土壌、植生といった地球上の自然環境の生い立ちや成り立ちについて広く説明する。後半はロシア、北米、アジアおよび北極圏の地理について、その特徴を人文地理的な内容も含めて概説する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
地球の自然環境の成り立ちについての基本的事項の体系的理解と特定地域の地理的事象の把握。				
<b>【授業計画】</b>				
前期				
第1回：地図を描く（頭の中の地図）				
第2回：地理学という分野について				
第3回：地球の誕生と進化				
第4回：地圏の成り立ち①				
第5回：地圏の成り立ち②				
第6回：大気大循環と気候				
第7回：気候帯の成因と分布				
第8回：課題作業				
第9回：地域の地理 ロシアの地理①				
第10回：ロシアの地理②				
第11回：北米の地理①				
第12回：北米の地理②				
第13回：アジアの地理①				
第14回：アジアの地理②				
第15回：北極圏の地理				
<b>【履修条件】</b>				
<p>毎年なのですが、授業中の私語、飲食、携帯使用、睡眠が非常に目立ちます。こうした行為はまじめに授業を受けたいと思っている人への妨害行為でもあるということをぜひ認識してください。大学生としての自覚をもち、しっかりと授業に参加したい人の受講を求めます。</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>毎回パワーポイントを利用し、ビジュアル的にわかりやすく説明する。少しでも興味を持って受講してくれることを望みます。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
課題作業の提出と定期試験により評価。				
<b>【テキスト】</b>				
テキストは使用しない。毎回、資料を配布する。				
<b>【参考文献】</b>				
地図帳を準備することが望ましい（推薦：新コンパクト地図帳2014－2015 二宮書店）				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
通訳ガイド演習Ⅰ	後期	2単位	井上 信恵 (2301研究室) E-mail: n-inoue@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>海外から日本を訪れる観光客は近年増加傾向にあり、通訳ガイドを始めとする通訳業務や国際交流業務に携わる者の需要は今後ますます高まっていくことが予想される。このような背景を踏まえ、本講義では、国際交流に関連したイベントなど、実際に専門の通訳が必要とされ得る場面を想定し、実践的な日英・英日通訳訓練を行う。</p> <p>尚、通訳トレーニングは特にリスニング及びスピーキングスキル向上に効果的であり、通訳業務に興味のある者だけではなく、単に英語のコミュニケーション力を高めたい者にも受講が勧められる。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
日本の社会事情について英語で説明できるようになる。また、実践的な通訳ができるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回： ショッピング、リビング、ノートテイキング、英日通訳トレーニング － ガイダンス	Unit 7 (pp. 44-45, 49, 48)	日本文化		
第2回： ショッピング、リビング、ノートテイキング、英日通訳トレーニング	Unit 11 (pp. 68-69)	社会事情		
第3回： ショッピング、リビング、ノートテイキング、英日通訳トレーニング	Unit 11 (pp. 68-69, 73①)	社会事情		
第4回： 口頭試験Ⅰ (ノートテイキング、英日通訳) 日英サイトトランスレーション、日英通訳トレーニング	Unit 10 (pp. 64-67)	社会事情		
第5回： 日英サイトトランスレーション、日英通訳トレーニング	Unit 11 (pp. 70-72)	社会事情		
第6回： 日英サイトトランスレーション、日英通訳トレーニング	Unit 10 (pp. 70-72, 73②)	社会事情		
第7回： 口頭試験Ⅱ (日英サイトトランスレーション) ショッピング、リビング、ノートテイキング、英日通訳トレーニング	「日本の観光市場」 Unit 5 (pp. 32-33)	国際交流		
第8回： 日英サイトトランスレーション、日英通訳トレーニング	Unit 5 (pp. 34-36)	国際交流		
第9回： 英日通訳トレーニング、日英通訳トレーニング	Unit 5 (pp. 36-37)	国際交流		
第10回： 英日通訳トレーニング、日英通訳トレーニング	Unit 5 (pp. 36-37)	国際交流		
第11回： 口頭試験Ⅲ (英日通訳、日英通訳) 「校長挨拶」	Unit 6 (pp. 38-39)	国際交流		
第12回： 日英通訳トレーニング	Unit 6 (pp. 41-42)	国際交流		
第13回： 日英通訳トレーニング				
第14回： 英日通訳トレーニング、日英通訳トレーニング				
英日・日英通訳トレーニング	Unit 6 (pp. 43, 40, 42-43, 39-40)	国際交流		
第15回： 口頭試験Ⅳ (英日通訳、日英通訳) － まとめ	「知事・大使挨拶」			
<b>【履修条件】</b>				
原則として、「通訳ガイド入門」を履修済みであることが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業中の通訳トレーニングに支障がないよう、専門用語については事前に予習しておくことが望ましい。また、成績評価は全て口頭試験で行われるため、そのための念入りな準備・復習が必要となる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
口頭試験Ⅰ (ノートテイキング、英日通訳) 20%、口頭試験Ⅱ (日英サイトトランスレーション) 20%、口頭試験Ⅲ (英日通訳、日英通訳) 30%、口頭試験Ⅳ (英日通訳、日英通訳) 30%				
<b>【テキスト】</b>				
斎藤 彩子/川内 裕子/安武 優子(著)『通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版] - Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>』(南雲堂)				
<b>【参考文献】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通訳を目指す人のための情報サイト (<a href="http://careergarden.jp/tsuuyaku/work/">http://careergarden.jp/tsuuyaku/work/</a>)</li> <li>・ 同時通訳者の英語術&amp;学習法 (<a href="http://www.alc.co.jp/translator/article/tobira/IJET25_05_01.html">http://www.alc.co.jp/translator/article/tobira/IJET25_05_01.html</a>)</li> </ul>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
通訳ガイド入門	前期	2単位	井上 信恵 (2301研究室) E-mail: n-inoue@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>海外から日本を訪れる観光客は近年増加傾向にあり、2020年開催の東京オリンピックを控え、その傾向は今後ますます高まっていくことが予想される。その一方、英語で十分にコミュニケーションを取ることのできる人材はまだ不足していると言われており、英語対応への遅れが課題として指摘されているのも事実である。このような背景を踏まえ、本講義では、実際に通訳者が実践するトレーニングを通して、英語のコミュニケーション力全般を高めると共に、実際に通訳が必要とされ得る様々な場面を取り上げ、実践的な日英・英日通訳訓練を行うものとする。</p> <p>尚、通訳トレーニングは特にリスニング及びスピーキングスキル向上に効果的であり、通訳業務に興味のある者だけではなく、単に英語のコミュニケーション力を高めたい者にも受講が勧められる。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
身近な話題や日本に関して簡単に英語で説明できるようになる。また、初歩的な通訳ができるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回： ショッピング、英日サイト翻訳セッション - ガイダンス	Unit 2 (pp. 12, 18①, 15)	大学生活		
第2回： ショッピング、英日サイト翻訳セッション	Unit 4 (pp. 26-27)	海外文化		
第3回： ショッピング、英日サイト翻訳セッション	Unit 9 (pp. 56-57, 18①)	観光		
第4回： 口頭試験I (ショッピング、英日サイト翻訳セッション) 日英通訳トレーニング	「留学生の自己紹介」 Unit 1 (pp. 10-11, 16-17[1])	家族		
第5回： 日英通訳トレーニング	Unit 3 (pp. 22-24)	日本文化		
第6回： 日英通訳トレーニング	Unit 7 (pp. 46-48)	日本文化		
第7回： 日英通訳トレーニング	Unit 7 (pp. 46-48, 49)	日本文化		
第8回： 口頭試験II (日英サイト翻訳セッション) 日英通訳トレーニング	「回転寿司の利用方法」 Unit 8 (pp. 52-54)	日本地理		
第9回： 英日通訳トレーニング	Unit 8 (pp. 50-51)	世界地理		
第10回： ショッピング、英日サイト翻訳セッション、英日通訳トレーニング	Unit 10 (pp. 62-64)	社会事情		
第11回： 英日通訳トレーニング	Unit 10 (pp. 62-64, 60①)	社会事情		
第12回： 口頭試験III (英日通訳)	「海外旅行先での観光」			
第13回： 日英通訳トレーニング	Unit 9 (pp. 58-60)	観光		
第14回： 日英通訳トレーニング	Unit 9 (pp. 59-60)	観光		
第15回： 口頭試験IV (日英通訳) - まとめ	「京都での観光案内」			
<b>【履修条件】</b>				
英語に対する苦手意識のないことが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業中の通訳トレーニングに支障がないよう、専門用語については事前に予習しておくことが望ましい。また、成績評価は全て口頭試験で行われるため、そのための念入りな準備・復習が必要となる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
口頭試験I (ショッピング、英日サイト翻訳セッション) 10%、口頭試験II (日英サイト翻訳セッション) 20%、口頭試験III (英日通訳) 30%、口頭試験IV (日英通訳) 40%				
<b>【テキスト】</b>				
斎藤 彩子/川内 裕子/安武 優子(著)『通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版] - Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>』 (南雲堂)				
<b>【参考文献】</b>				
通訳を目指す人のための情報サイト ( <a href="http://careergarden.jp/tsuuyaku/work/">http://careergarden.jp/tsuuyaku/work/</a> )				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
新潟県の観光	前期	2単位	パロリ ブレンディ (2313研究室) E-mail:b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>観光立県の構想を打ち出した新潟県を対象に、21世紀のリーディング産業と呼ばれる観光産業を取り上げる。現在、日本が進めている観光立国政策が重点的に取り組むのは、①訪日外客市場（インバウンド）の拡大、および ②着地型観光（地域の観光資源を活かした住民・地元主導型観光）の推進である。ところが、従来の日本の観光市場は日本人による国内旅行および海外旅行（アウトバウンド）がメインであり、かつ、大手旅行会社が観光客を国内外に送客する発地型観光が中心となっていたため、現在の「二大重点施策」を押し進めるには課題が山積している。そこでこの講義では、現在の日本なかならず新潟県の観光産業の特徴と課題を整理したうえで、インバウンドおよび着地型観光のケース分析を行い、観光立国・観光立県を実現するための実践的手法を考察する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>内容をきちんと理解し、学外の第三者へ説明できるレベルに到達した学生を想定している。以下のことが特に大事である。</p> <p>1. 観光産業の特徴と課題、そして観光商品の特徴を理解すること。2. 新潟県の観光資源や観光地としてのポテンシャルについて詳しく理解すること。3. 地域住民主導の地域づくりとしての着地型観光の考え方、そしてそれに基づいた政策の課題を理解すること。4. インバウンド観光の商品づくりの特徴と課題を理解し、自ら提案をすることが出来るようになること。5. 観光が国や地域社会に及ぼす影響および持続可能な観光を実現するための条件を把握すること。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス  第2回：国の観光政策  第3回：新潟県観光の沿革・特色  第4回：新潟県地方自治体の観光政策  第5回：新潟県観光動態の推移  第6回：新潟県的主要観光資源  第7回：新潟県の名所（県内旅行）*  第8回：新潟県の名所（県内旅行）*  第9回：新潟県の地域特性・資源の把握  第10回：新潟県の「食」観光資源  第11回：新潟県の「歴史」観光資源  第12回：新潟県の外客誘致  第13回：新潟県インバウンド観光の現状と問題  第14回：新潟県の観光振興を考えよう  第15回：まとめ</p>				
<p>*土曜日に行う。日帰りの県内旅行。『基礎ゼミナールⅠ』の2コマと『新潟県の観光』の2コマ分とカウントされる。旅行を行う週とその翌週は『基礎ゼミナールⅠ』および『新潟県の観光』のクラス授業はなし。</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>「○○新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されるので、目を通しておくとよいでしょう。」  「県内の○○センターには関連する最新情報が掲示されています。」  などの、学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいと思います。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
課題レポート30%（各レポート15%×2回、期末試験50%、受講態度 20%				
<b>【テキスト】</b>				
1. 大社 充、体験交流型ツーリズムの手法地域資源を活かす着地型観光、学芸出版社、2008年。				
<b>【参考文献】</b>				
<p>1. 古池 嘉和、地域の産業・文化と観光まちづくり創造性を育むツーリズム、学芸出版社、2011年。  2. 新潟県観光入込客統計、新潟県観光立県推進行動計画、新潟県観光地満足度調査結果などは適宜講義中に紹介する。</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
日本国憲法	前期	2単位	<small>ふじた まさき</small> 藤田 真樹 (308研究室) E-mail: m-fujita@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>本講義は、「憲法」という法は、誰に宛てられたものであり、何を定めているのか、近代立憲主義とはどのような概念かといった基礎的な知識を身につけ、特に先端科学技術の発達をもたらす法的問題について「憲法」からどのようにアプローチすべきか考えていく。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>憲法は大きく「人権」と呼ばれる部分と「統治」と呼ばれる部分から構成されている。本講義では、主に「人権」について扱い、二重の基準論や規制目的二分論など基礎的な知識を身に付け、応用できるようになることを到達目標とする。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
前期				
第1回：ガイダンス・法とは何か				
第2回：人権とは何か				
第3回：立憲主義				
第4回：人権の制約原理				
第5回：個人の尊厳原理・幸福追求権				
第6回：平等原則				
第7回：二重の基準論				
第8回：精神的自由				
第9回：経済的自由				
第10回：社会権				
第11回：統治総論・三権分立				
第12回：国会				
第13回：内閣				
第14回：裁判所				
第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
なし。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
講義で扱う教科書の該当範囲について通読してくること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
平常点、期末テストを総合して評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店・2015年）				
<b>【参考文献】</b>				
適宜紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
日本史	後期	2単位	<small>おおみや まこと</small> 大宮 誠 E-mail: omiya.makoto@live.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○				
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>明治維新からアジア・太平洋戦争敗戦までの時期を対象として、近代日本社会と戦争について検討していきます。授業は、この時代の概説をするものではありません。歴史学では、対象をどのような視点でとらえるかが、とても重要です。日清戦争以後の近代日本は戦争を繰り返してきました。授業では、戦争に至る過程で、為政者や国民が世界情勢と日本の関係をどのように捉え、戦争に至る論理・過程を受け止めていったかを考えていきます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>歴史的事実（戦争）の前後にある因果関係を、為政者や国民の認識の視点から考えることにより、暗記科目ではない歴史の面白さを知るとともに、近代における日本の実像を理解することができます。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス            第2回：明治維新时期            第3回：明治前期（軍備の拡張）            第4回：日清戦争期Ⅰ（開戦への論理）            第5回：日清戦争期Ⅱ（戦後の国際環境）            第6回：日露戦争期Ⅰ（開戦への論理）            第7回：日露戦争期Ⅱ（講和条約と新たな外交問題）            第8回：第一次世界大戦期Ⅰ（参戦と対外膨張）            第9回：第一次世界大戦期Ⅱ（民族自決主義と日本の対応）            第10回：満洲事変期Ⅰ（満蒙問題と関東軍の暴走）            第11回：満洲事変期Ⅱ（満洲国独立と中国本土への権益拡大）            第12回：日中戦争期（中国本部への侵略と米英との対立）            第13回：アジア・太平洋戦争期Ⅰ（開戦への過程と戦況）            第14回：アジア・太平洋戦争期Ⅱ（総力戦と兵士・国民の犠牲）            第15回：まとめ</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
常に、歴史的な事実が何故起こったのか因果関係を考えながら、授業に臨むことが必要です。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
基本的な知識の確認と、課題に対して論理的な記述ができているかを評価します				
<b>【テキスト】</b>				
プリントを配布				
<b>【参考文献】</b>				
<p>加藤陽子『戦争の日本近現代史』（講談社現代新書）、加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（朝日出版社）、『東アジア近現代通史』1-10巻（岩波書店）、井上寿一『日本外交史講義』            上記以外の参考文献は講義中に随時提示します。</p>				



科目名	開講期	単位数	配当年次	必修・選択	担当教員
日本文化史	後期	2単位	1	選択	おぎ みつお 萩 美津夫
学科	科目区分			必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目			選択	1
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○					
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<p><b>【授業の概要】</b>  これまで、中学校、高等学校で勉強してきた日本の歴史は、年代や歴史用語を暗記することであったと思います。この講義では、日本の文化(広い意味の文化で、文学、芸術工芸のほか、政治、宗教なども含みます)の中から、様々なテーマを選び、それらの考察を通して、全体としての日本の歴史を学び、我々の祖先たちの活動の様子や、生活、物の考え方などを勉強していきたいと思っています。</p>					
<p><b>【到達目標】</b>  日本の歴史の流れと日本文化の特色を正しく理解する。</p>					
<p><b>【授業計画】</b>  第1回：ガイダンス  第2回：日本の歴史について時代区分を通して考える  第3回：日本列島と文化の入り口  第4回：文字との出会いと仮名の成立①  第5回：文字との出会いと仮名の成立②  第6回：神話の世界－神話から何がわかるか－①  第7回：神話の世界－神話から何がわかるか－②  第8回：トイレの歴史－トイレから何がわかるか－①  第9回：トイレの歴史－トイレから何がわかるか－②  第10回：天皇・公家・武家－大和政権から明治国家まで－①  第11回：天皇・公家・武家－大和政権から明治国家まで－②  第12回：武士の誕生①  第13回：武士の誕生②  第14回：子供の教育－寺入り－①  第15回：子供教育－寺子屋－②</p>					
<p><b>【履修条件】</b>  特になし</p>					
<p><b>【学習上の留意点および準備等】</b>  講義では、プリントを配布して、それに基づいて進めますが、板書も多いので、板書したものは勿論、話した内容も必要に応じて、ノートをとる姿勢で聴講することが必要です。また、プリントを声を出して読んでもらいます。声を出して読むことの大切さを知ってもらえればと思います。</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  定期試験によって評価します。但し、欠席が1/3以上に及びますと、試験資格を失いますので注意してください。</p>					
<p><b>【テキスト】</b>  使用しません</p>					
<p><b>【参考文献】</b>  吉村武彦他編著、「日本の歴史を解く100話」、文英堂  歴史教育者協議会編、「100問100答日本の歴史」、河出書房新社</p>					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
農業と観光	前期	2単位	<small>さとむら こういち</small> 里村 孝一（2307研究室） E-mail : k-satomura@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>近年、観光では、農業・農村を中心として食と彩を楽しむことや農業体験など第1次産業である農業と連携した取り組みが多くみられ、地域振興の基幹産業として観光業に対する期待が高まっている。</p> <p>新潟は、四季折々の多彩な自然や史跡、特色ある温泉、新鮮で美味しい食材など地域として特色のある豊富な観光資源がある。その一方で、これらの優れた観光資源と農山漁村の多様・多彩な資源を結びつけて十分に有効活用し集客しているといい難い。</p> <p>「農業と観光」では、日本有数の農業地域としての新潟の農業・農村と地域活性化の大きなツールとしての観光との連携を一層進めるため、農観連携等による交流・誘客等の地域振興活動の成功要因や問題点・課題等を踏まえ、特に、「農業で観光を行う」「観光で農業が潤う」ための農業・農村と観光の異業種共存のすすめ方及び資源活用と地域への誘客の企画・実践に必要な基礎知識の理解促進を目的とする。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
農観連携等によるまち・むら交流活動ビジネス推進による地域活性化の実践的着眼点の理解と誘客方法が考えられるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：はじめに（農業と観光の関係と課題）</p> <p>第2回：観光の資源発掘とその育成、そして、新潟の「農・食・観光」の現状と課題及び対応を考える</p> <p>第3回：農業・農村とは(1)～その資源価値</p> <p>第4回：農業・農村とは(2)～農村空間の商品化を考える</p> <p>第5回：顧客づくり～集客、リピーターの拡大（ビギナーをリターナーに、リターナーをリピーターに）</p> <p>第6回：農・食関連産業と観光～農林漁業を活用した観光事業</p> <p>第7回：観光おこしとまち・むらの魅力づくり（地域おこし）</p> <p>第8回：地域の食とツーリズム～フードツーリズムの類型と拡大</p> <p>第9回：食を活かした観光まちづくりとマーケティング</p> <p>第10回：農観連携の取り組み～農山漁村の魅力と観光資源を結びつける</p> <p>第11回：観光農業の組織的推進とその体制～組織的取組事例にみる観光農業の推進</p> <p>第12回：観光と結びつく農業～農・食を活かした観光まちづくりに取り組む 事例研究</p> <p>第13回：グリーン・ツーリズムとその経営戦略～マーケティング、サービス、体験メニュー</p> <p>第14回：積極的・主体的なニューツーリズムの取り組みによる農企業的観光経営 ～農業・農村の食と文化と自然を楽しむ、学ぶ、体験するニューツーリズムと新レジャー農業の実践</p> <p>第15回：地域観光と関連する農食彩ビジネスの現状と取り組み方（戦略）</p>				
<b>【履修条件】</b>				
地域の農食彩に興味を持ち、農観連携等による地域振興に取り組む意欲があること。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
農業・農村と観光に関するマスメディア等各種の情報に注意しながら、問題意識を持って授業に臨むこと。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
定期試験、受講態度等に応じて評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
講義時に配布するプリントを使用				
<b>【参考文献】</b>				
商品化する日本の農村空間（農林統計出版）、フードツーリズム論（古今書院）、観光産業論（原書房）、農商工連携による「新地域おこし」（ぎょうせい）、観光未来白書（同友館）、新レジャー農業時代（農林統計出版）、地域活性化マーケティング（同友館）他、適宜、授業の中で紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員		
農業ビジネス論Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	<small>さとむら こういち</small> 里村 孝一（2307研究室） E-mail：k-satomura@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	専門基本科目		選 択	2	
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○			○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>農（農・食・彩）ビジネスの推進による経営と地域の「利益」（りやく）を獲得する取り組み方を考える。近年、地域を担う農業者は、国民に単なる食材提供だけでなく、経営の複合化や多角化をとおして、販売する「商品」づくりに向けた付加価値農業を展開して所得向上と地域活性化への動きを活発化している。</p> <p>さらに、『農業・農村』は、国民の生活・生命の関係産業として「食」とともに、観光や教育、医療・福祉、ITなどの企業が積極参入するなど、魅力あるビジネス分野として積極的に参入してきており、農業の6次産業化と農商工連携の活動等を背景とした円滑なビジネスの実践があらためて重要となっている。</p> <p>このため、「農業ビジネス論Ⅰ」では、農業・農村やその周辺領域における多様な農ビジネスについての現状と課題及び生産、加工、販売営業までの総合的なビジネスマネジメント方法等の基本知識の理解を図る。また、「農業ビジネス論Ⅱ」では、農業ビジネス論Ⅰに加えて、マネジメント方法等の知識理解をさらに深め発展させるため、注目すべき農ビジネスの活動及び経営・販売の戦略とその活用等を取り上げる。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>生命・生活産業としての農（農・食・彩）ビジネスの活動に関わる着眼の方法や基本的なマネジメントのあり方の理解を踏まえて、農ビジネスへのチャレンジを考えるようになること。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
農業ビジネス論Ⅰ			農業ビジネス論Ⅱ		
第1回：農業ビジネスの推進について			第1回：流通販売におけるフードシステム		
第2回：食料・農業・農村問題と農業経営			第2回：販売開拓とその支援、消費者の商品選択行動		
第3回：農業で稼ぐ8つの目標と経営戦略			第3回：農業等中小企業体の経営戦略		
第4回：農業ビジネスの戦略と6次産業化のブレイクスルー			第4回：売上の改善と利益最大化の視点		
第5回：農産物流通の仕組みと流通戦略			第5回：販売流通業の戦略思考		
第6回：農業マーケティング活動の展開			第6回：農業の経営管理と安全性		
第7回：農業マーケティングの留意点と売れる商品開発			第7回：地産地消に基づく地域経営		
第8回：農業の6次産業化、農商工連携、企業参入(1)			第8回：高収益成功事例の農業経営運営		
第9回：農業の6次産業化、農商工連携、企業参入(2)			第9回：農業ビジネスの企業者活動		
第10回：企業の小売・流通販売戦略と農業利用			第10回：「道の駅」と「農」ビジネス		
第11回：地域活性化に向けた「農」ビジネス(1)			第11回：ハイテク農業ビジネス（植物工場）		
第12回：地域活性化に向けた「農」ビジネス(2)			第12回：都市農業とビジネス		
第13回：農商工等連携による地域ブランド構築の進め方			第13回：「農」ビジネスのグローバル化		
第14回：農商工等連携のブランド戦略と情報の活用			第14回：6次産業化と知財管理		
第15回：アグリ・ルーラルビジネス推進の支援指導			第15回：農ビジネス繁盛するには		
<b>【履修条件】</b>					
<p>地域の農と食と地域の彩（活性化）に興味を持ち、それに関わる意欲があること。</p> <p>なお、後期「農業ビジネス論Ⅱ」は、前期「農業ビジネス論Ⅰ」に加えての理解拡充の内容と位置づけているので、「農業ビジネス論Ⅰ」を履修した学生の受講が望ましい。</p>					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
農商工連携等の農ビジネスに関する各種情報に注意しながら、問題意識を持ち授業に臨むこと。					
<b>【成績評価の方法】</b>					
定期試験、受講態度等に応じて評価する。					
<b>【テキスト】</b>					
「ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識」（株式会社ぎょうせい）					
<a href="http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&amp;products_id=7405">http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&amp;products_id=7405</a>					
「接客・接遇のためのユニバーサルサービス基本テキスト」（日本能率協会マネジメントセンター）					
<a href="http://universalservice.jp/books/526/">http://universalservice.jp/books/526/</a>					
<b>【参考文献】</b>					

科目名	開講期	単位数	担当教員		
販売と経営Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期 集中	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	つかべ ひろたか 塚辺 博崇（506研究室） E-mail：tsukabe@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	専門選択科目		選 択	2	
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○			○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>本講義は、小売・流通業で唯一の公的資格である販売士検定の資格取得に必要な知識を習得することを目指した講義である。販売士は5科目（小売業の種類、マーチャダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理）で構成され、幅広い知識が必要である。</p> <p>販売と経営Ⅰにおいては主に基礎的な知識とそれを確認する問題演習を行う。販売と経営Ⅱにおいては基礎的な知識の確認と応用的な知識の追加、そして問題演習を行い知識の定着を目的とする。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
販売士検定3級の合格水準の知識を身に付けることによって、小売・流通の現場に必要な知識が理解できるようになる。					
<b>【授業計画】</b>					
販売と経営Ⅰ			販売と経営Ⅱ（2月中旬に集中講義）		
第1回：ガイダンス			第1回：ガイダンス		
第2回：販売・経営管理・基礎①			第2回：小売業の種類・応用		
第3回：販売・経営管理・基礎②			第3回：小売業の種類・問題演習		
第4回：マーチャダイジング・基礎①			第4回：マーチャダイジング・応用		
第5回：マーチャダイジング・基礎②			第5回：マーチャダイジング・問題演習		
第6回：問題演習			第6回：ストアオペレーション・応用		
第7回：ストアオペレーション・基礎①			第7回：ストアオペレーション・問題演習		
第8回：ストアオペレーション・基礎②			第8回：マーケティング・応用		
第9回：マーケティング・基礎①			第9回：マーケティング・問題演習		
第10回：マーケティング・基礎②			第10回：販売・経営管理・応用		
第11回：小売業の種類・基礎①			第11回：販売・経営管理・問題演習		
第12回：小売業の種類・基礎②			第12回：模擬試験①		
第13回：問題演習			第13回：模擬試験②		
第14回：総合問題演習			第14回：模擬試験③		
第15回：まとめ			第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>					
販売と経営Ⅰ・Ⅱを同時に履修することが望ましい。販売と経営Ⅱのみを履修する場合は事前に相談し、事前準備等の指示を受けること。					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
予習は指示した場合以外は必要ないが、復習については十分に行う事。電卓が必要であるため用意すること。					
<b>【成績評価の方法】</b>					
課題及び講義内の問題の成績を重視するが、受講状況や検定の成果を総合的に加味して評価する。					
<b>【テキスト】</b>					
ガイダンス時に指示する。					
<b>【参考文献】</b>					
日本商工会議所・全国商工会連合編『販売士検定ハンドブック（基礎編）販売士検定3級対応』キャリアック					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ビジネス法Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	<small>ふじた まさき</small> 藤田 真樹（308研究室） E-mail：m-fujita@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門選択科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
近年、企業の法令遵守が強く求められている。個人情報保護法や消費者保護法、公益通報者保護法などの制定はその表れといえる。このような社会的状況のもと、企業が法的な対応を適正に行うには、法務部に所属するものではなく、従業員すべてが、一定程度の法的な知識を有していることが必要である。そこで、本講義では、近年、ビジネス実務において必要とされる基礎的な知識について、従来の法学の枠組みである、公法、民法、刑法といった枠組を超えて、ビジネスの現場で必要となる法律について網羅的に学ぶ。				
<b>【到達目標】</b>				
ビジネス法に関する基礎知識の習得し、現場において適切に判断できるようになることを目的とする。				
<b>【授業計画】</b>				
ビジネス法Ⅰ		ビジネス法Ⅱ		
第1回：ガイダンス・ビジネス法総論		第1回：商行為・商人		
第2回：法律の基礎知識		第2回：商業登記		
第3回：民法の基礎知識		第3回：商号		
第4回：権利義務の主体		第4回：会社のしくみ		
第5回：法人の意義・種類		第5回：手形・小切手法		
第6回：契約の概念		第6回：独占禁止法		
第7回：契約の成立		第7回：消費者契約法		
第8回：契約成立後の問題		第8回：特定商取引法		
第9回：売買以外の契約		第9回：知的財産権の保護		
第10回：契約によらない債権・債務の発生		第10回：個人情報の保護		
第11回：財産取得にかかわる法律		第11回：ビジネスと犯罪		
第12回：債権の管理回収		第12回：労働法		
第13回：債権の担保		第13回：取引と家族関係		
第14回：強制執行等と債務者の倒産		第14回：相続		
第15回：まとめ		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
民法について基礎的な理解があることが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
各講義で扱う教科書の該当範囲について通読してくること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
平常点、期末テストを総合して評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
開講時に指示する。				
<b>【参考文献】</b>				
適宜紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ビジネスマナーとホスピタリティ	前期	2単位	まきの あさこ 菊野 麻子	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ビジネスマナーとは、「職業人としての礼儀作法」のことです。年代を問わず多くの人達と関わりながら仕事をしていくためには、言葉遣いや立ち居振る舞いで相手を思いやる気持ちを伝えることがとても大切です。知らないで恥をかく、知っていれば円滑に相手とコミュニケーションがとれる、社会で活躍するうえで大切なビジネスマナーの基本を学びましょう。</p> <p>本講義では、ビジネスマナーの「型」を身に付けてもらいます。学生の皆さんには、講義を聞くだけでなく、主体的に多くのことを学び、気づき、自分で考えて行動できる「対応力」も養ってほしいと思います。総括として、学んだことを踏まえて、それぞれが考える「ホスピタリティ・マインド」をテーマにグループディスカッションをしてもらいます。「もてなす」とは、どのように相手を思いやり、どのような行動をとることなのか、皆さんが導き出す考えに期待しています。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
職業人の基本となるビジネスマナーを身につけるとともに、日本の“もてなしの心”を育むことで国内外で活躍できる人材を育成する				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：オリエンテーション  第2回：ビジネスコミュニケーションの基本  第3回：ビジネスコミュニケーション①&lt;正しい日本語/敬語&gt;  第4回：来客応対（送迎/名刺交換/席次/立ち居振る舞い）  第5回：ビジネスコミュニケーション②&lt;伝える技術&gt;  第6回：電話応対  第7回：ビジネスコミュニケーション③&lt;聞く技術&gt;  第8回：職場におけるマナー（命令指示の受け方/報告のしかた）  第9回：社外でのマナー（訪問時のマナー）  第10回：ビジネスコミュニケーション④&lt;ビジネス文書の基本&gt;  第11回：ユニバーサルサービス①&lt;基本的な考え方&gt;  第12回：ユニバーサルサービス②&lt;ケーススタディ&gt;  第13回：ビジネスコミュニケーション⑤&lt;クレーム対応の基本&gt;  第14回：ホスピタリティとは&lt;グループディスカッション&gt;  第15回：総括</p>				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
講義を聞くという受け身ではなく、学び、気づき、行動につなげる 2コマ続けての講義				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業態度、課題提出などを総合的にみて評価する				
<b>【テキスト】</b>				
「ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識」（株式会社ぎょうせい） <a href="http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&amp;products_id=7405">http://shop.gyosei.jp/index.php?main_page=product_info&amp;products_id=7405</a> 「接客・接遇のためのユニバーサルサービス基本テキスト」（日本能率協会マネジメントセンター） <a href="http://universalservice.jp/books/526/">http://universalservice.jp/books/526/</a>				
<b>【参考文献】</b>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
フード・ビジネス論	前期	2単位	<small>たきざわ けんいち</small> 滝沢 憲一 (2309研究室) E-mail: k-takizawa@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>「インスタントラーメン」、「レトルトカレー」、「カニ風味かまぼこ」の3つが、戦後日本における食品の3大発明といわれている。これらはただ単に多くを売り上げているだけではなく、食生活の新たなスタイルを生み出し、それは海外へも波及した。「カニ風味かまぼこ」の主原料のすり身は、英語でもスペイン語でもsurimiである。しかし近年の食品産業は3大発明に匹敵するようなヒットを生み出せずにおり、業界規模は、少子高齢化や人口の減少という問題などからほぼ横ばいの状態が続いている。</p> <p>本講義は、消費者のさまざまなニーズに応える食品産業の動向や社会的な背景について説明する。受講する学生には、ただ話を聞くだけという一方通行の態度ではなく、独自の視点から柔軟な発想を生み出し出席者全員でアイデアを膨らませるような能動的な姿勢での出席を求める。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
食品業界の現状の傾向や今後の方向性について理解し、さらに独自の発想から新たなアイデアを第三者に提案することができるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：食品の3大発明と高度成長期の食生活 第3回：食品業界の動向と社会の変化 第4回：世界の食料事情と水事情 第5回：食の5A(1)－味－ 第6回：食の5A(2)－安全－ 第7回：食の5A(3)－安心－ 第8回：食の5A(4)－安定－ 第9回：食の5A(5)－安価－ 第10回：地域ブランド化の現状と課題 第11回：六次産業化の現状と課題 第12回：食品輸出の現状と課題 第13回：植物工場の現状と課題 第14回：宇宙食の現状と課題 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
毎回配布するプリントを期末試験の際に使用するので、各自でファイリングすること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
受講態度、発言、課題および期末試験等、総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
毎回、授業の開始時に配布する。				
<b>【参考文献】</b>				
適宜、講義中に紹介する。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
法学	前期	2単位	<small>おちあい ふくじ</small> 落合 福司 (409研究室) E-mail: ochiai@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	一般教養科目		選択	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>「社会のあるところに法がある」といわれるように、人間が形成する社会には一定のルールがあり、それは紛争を予防し、解決することによって安定した社会秩序を実現する。このルールというのが法である。そして国家の下では、法は法律という形式を備えて社会全体をコントロールする機能を発揮している。</p> <p>そこで、法律の基本的枠組みを理解するとともに、現代社会に生起する法律問題の解決を考えることにより、法的思考能力および法的紛争解決能力を養うことにする。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
社会で生起する事件やトラブルの法的解決を考えることができる。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：社会と法Ⅰ 法の目的と法源 第2回：社会と法Ⅱ 法の解釈と適用 第3回：国家と法律Ⅰ 憲法 第4回：国家と法律Ⅱ 刑法 第5回：市民と法律Ⅰ 契約法 第6回：市民と法律Ⅱ 損害賠償法 第7回：家族と法律Ⅰ 婚姻法・親子法 第8回：家族と法律Ⅱ 相続法・遺言法 第9回：企業と法律Ⅰ 商法・会社法 第10回：企業と法律Ⅱ 製造物責任法 第11回：労働と法律Ⅰ 労働法 第12回：労働と法律Ⅱ 社会保障法 第13回：世界と法律Ⅰ 国際公法 第14回：世界と法律Ⅱ 国際私法 第15回：法とは何かを考える				
<b>【履修条件】</b>				
勉学意欲があること。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
①テキストを携帯して出席すること ②予習復習をすること ③私語はしないこと				
<b>【成績評価の方法】</b>				
定期試験及びレポートによる総合評価。				
<b>【テキスト】</b>				
落合福司ほか著『やさしい法学』成文堂				
<b>【参考文献】</b>				
デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)など。				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
簿記会計Ⅰ・Ⅱ	前記集中	Ⅰ：2単位 Ⅱ：2単位	<small>やぶした やすひろ</small> 藪下 保弘（2314研究室） E-mail：yabushita@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本必修科目		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>講義に先立ち、簿記の基礎を理解するため、5つの構成要素（資産・負債・純資産・収益・費用）の性質を整理し、これらの最小単位である「勘定科目」ごとに異なる処理を学ぶ。</p> <p>簿記学習の基本は「仕訳」に尽きる。このため、さまざまな処理方法に関する「仕訳」を学び、学習のゴールとして会計報告および意思決定に資する情報の基礎となる報告書、すなわち企業の財政状態を明らかにする「貸借対照表」と、同じく経営成績を明らかにする「損益計算書」の作成に至る一連の技法を習得する。なお、本講義では「日商簿記3級」（商業簿記）の取扱範囲を網羅する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
財務3表を理解し、企業が発信する財務情報・IR情報の本質を読み解けるようになる。				
<b>【授業計画】</b>				
簿記会計Ⅰ		簿記会計Ⅱ		
第1回：ガイダンス 会計と簿記の基礎		第1回：決算手続(1) 決算のあらまし、評価替え		
第2回：日常の手続き(1) 勘定・仕訳		第2回：決算手続(2) 現金過不足、消耗品		
第3回：日常の手続き(2) 簿記一巡		第3回：決算手続(3) 売上原価の算定		
第4回：商品売買(1) 三分法、掛取引		第4回：決算手続(4) 減価償却、売却		
第5回：商品売買(2) 返品、値引、諸掛		第5回：決算手続(5) 貸し倒れ		
第6回：現金預金取引		第6回：決算手続(6) 見越し、繰延べ		
第7回：当座預金取引		第7回：決算手続(7) 精算表		
第8回：小口現金		第8回：決算手続(8) 帳簿（勘定）の締め切り		
第9回：手形取引(1) 約束手形		第9回：決算手続(9) 財務諸表の作成		
第10回：手形取引(2) 裏書、割引		第10回：伝票式会計		
第11回：その他の期中取引(1) 債権債務		第11回：総合問題演習(1) 仕訳		
第12回：その他の期中取引(2) 固定資産、有価証券		第12回：総合問題演習(2) 合計試算表、残高試算表		
第13回：その他の期中取引(3) 租税公課、訂正仕訳		第13回：総合問題演習(3) 記帳方法の変更		
第14回：試算表の作成		第14回：総合問題演習(4) 精算表、財務諸表		
第15回：貸借対照表と損益計算書		第15回：まとめ 会計の役割		
<b>【履修条件】</b>				
日商簿記3級程度の知識を要する				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>毎回の講義では、指定テキストと電卓は必携である。            （開講時に、簿記学習に適した電卓を示す）</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末テストのみで評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
講義開始時に別途指定する				
<b>【参考文献】</b>				
なし				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ホテル経営論	後期	2単位	<small>でぐち たかやす</small> 出口 高靖 (2311研究室) E-mail: t-deguchi@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ホテル業界の歴史を知り、どのような変遷を経て現在まで成長して来たのかをわかり易く学習し、海外・日本におけるホテルの役割や都市計画とホテルの関係等、またその時代にあったホテル経営はどのようなものかを知ります。</p> <p>さらにホテル経営の営業基盤（宿泊・飲食・宴会・婚礼・施設利用）をマーケットの中で、どのように販売し、商品企画や販売の手法を展開するのかを学びます。また、インターネットの急速な拡大により、旅行会社や航空会社中心の従来型の販売からホテル業界は脱皮の時を迎えており、新たな販売への変革が求められています。本科目では、ホテル経営の最先端の経営のみにとらわれず、総合的に学びます。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホテル経営論の基礎知識を習得します。</li> <li>2. ホテル業における経営形態・収益構造を理解します。</li> <li>3. ホテルの経営について、営業基盤（宿泊・料飲等）毎に知識を取得し、現状を把握します。</li> <li>4. インターネット時代のホテル業における知識を習得します。</li> </ol>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：ホテルを取り巻く環境の変化 第3回：世界のホテル・ビジネス 第4回：日本のホテル・ビジネス 第5回：ホテル・ビジネスの特質 第6回：ホテル・ビジネスとファッション 第7回：ホテル・ビジネスの経営形態 第8回：ホテルの収益構造 第9回：ホテルの情報システム 第10回：ホテルの組織と総支配人の役割 第11回：ホテル経営の営業基盤（宿泊部門の業務） 第12回：ホテル経営の営業基盤（料飲・宴会部門の業務） 第13回：ホテル経営の営業基盤（セールス・管理部門の業務） 第14回：インターネット時代のホテル経営 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特にないが、前期「宿泊産業論」から継続して、受講することが望ましい。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
予習時に自分なりの課題を見つけて、次回で議論すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
授業態度、レポート、定期テストにより総合的に評価します。				
<b>【テキスト】</b>				
仲谷秀一・杉原淳子・森重喜三郎「ホテル・ビジネス・ブック」中央経済社				
<b>【参考文献】</b>				
仲谷秀一「ホテル・マーケティング・ブック」(株)中央経済社 鈴木博 大庭棋一郎「ホテル経営教本」柴田書店				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
マーケティングの基礎	前期	2単位	<small>かたかみ ひろし</small> 片上 洋 (505研究室) E-mail: katakami@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基本科目		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
「売れる仕組みづくり」であるマーケティングについて、基礎的・基本的な内容の理解を目標とする。				
<b>【到達目標】</b>				
マーケティングの意義、活動のプロセスを理解する。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：マーケティングの考え方と役割				
第2回：マーケティングの歴史				
第3回：マーケティング論の歴史				
第4回：マーケティング諸活動				
第5回：マーケティング計画				
第6回：企業成長戦略				
第7回：市場機会分析				
第8回：市場定義と市場セグメンテーション				
第9回：製品戦略				
第10回：ブランド戦略				
第11回：価格戦略				
第12回：プロモーション戦略(1)				
第13回：プロモーション戦略(2)				
第14回：街づくりのマーケティング				
第15回：総括、商業とサービス産業への応用				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
教科書の展開を中心に講義を行うので、教科書を必ず持参。重要な内容は小テストを行うので、これを参考に期末試験に備えること。ノートを準備して、重要事項を記入すること。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末テスト、小テスト、出席により、総合的に評価する。				
<b>【テキスト】</b>				
片上 洋編著『学生の学生による学生のためのマーケティング入門』（三学出版）				
<b>【参考文献】</b>				
片上 洋編著『マーケティング戦略の新展開』（三学出版）				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
まちづくり実習Ⅰ	前期	2単位	<small>こんどう まさゆき</small> 近藤 政幸 (2305研究室) E-mail : m-kondo@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>この授業は、まちづくり論を受けて、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、学生達が目標をもって実習先の観光まちづくり団体への実務体験、ヒアリング、データ収集、分析から商品開発と報告と提案までをトータルに学習体験をすることを目的としている。</p> <p>観光まちづくりの業務連鎖を想定しながら、実戦形式で行う。しかも最終的には、実習先の観光まちづくり業務報告と自身の課題発表までのプレゼンテーションを学生たちが行う実習である。</p> <p>このアクティブ・ラーニングの実習では学生たちに3点の学習効果が得られることを狙いとしている。</p> <p>①観光まちづくりのマーケティングを学ぶ、②まちづくりの3要素である、コミュニティ、環境、経済・社会の実習と資源調査を行うことで社会人としてのマナーとスキルを身につける、③地域資源の調査・分類研究を行うことで資源の商材化・商品開発・商流化までの企画書が作成できる。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>アクティブ・ラーニングの手法を用いて、①観光まちづくりのマーケティングの体験的学習、②コミュニティ、団体組織、職種など一連の実習を通じて社会人としての礼儀作法を学ぶこと、③地域資源の宝さがしと分類を行い、基礎的観光商品の開発ができる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回： まちづくり実習のガイダンス・全体の流れ指導と目標設定</p> <p>第2回： 観光まちづくり各自の実習プログラム、ロードマップを作成</p> <p>第3回： 観光まちづくり事例集より各自PPT作成と予備プレゼン体験</p> <p>第4回： 事前学習、対象観光地のマーケティング基本的枠組みと必要データ収集</p> <p>第5回： 対象観光地の情報収集の方法と分析ポイント（コミュニティ、経済等）</p> <p>第6回： 地域資源の分類表作成と着地型観光商品の開発とブランド化</p> <p>第7回： 実習前のまとめ、マーケティング、地域資源の編集、観光データ準備</p> <p>第8回： 実習先まちづくり団体研究Ⅰ、ヒアリング（歴史・組織・経営等）</p> <p>第9回： 実習先まちづくり団体研究Ⅱ、地域資源の調査、表に記録、編集</p> <p>第10回： 実習先まちづくり団体研究Ⅲ、地域資源調査とヒアリング</p> <p>第11回： 実習先のデータにもとづく観光地分析、地域資源の編集作業、販路想定</p> <p>第12回： SWOT分析、3C分析とマーケティングミックス後の商品開発とSTP 販路としてのセグメンテーション、ターゲット、ポジショニング</p> <p>第13回： 実習先への企画提案書の提出とプレゼンテーション、団体研究Ⅳ</p> <p>第14回： 実習先まちづくり団体からの回答と意見交換、報告書団体研究Ⅴ</p> <p>第15回： まとめ（総括）</p>				
<b>【履修条件】</b>				
実習期間中は、欠席は不可である。全15回出席が前提となる。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
実習先では、あくまでも研修の機会をいただく意識と心得、真摯に取り組み、積極的に対応すること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
①実習先指導者の評価40%、②事前指導の学習理解度、30%、③事後の企画書または報告書のまとめ方、30%				
<b>【テキスト】</b>				
「観光まちづくりのマーケティング」十代田 朗（2010） 学芸出版社				
<b>【参考文献】</b>				
「これでわかる！着地型観光」尾家 健生、近藤政幸（2008） 学芸出版社				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
まちづくり論	前期	2単位	<small>こんどう まさゆき</small> 近藤 政幸 (2305研究室) E-mail: m-kondo@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>2005年以降日本の人口が減少時代に入り、地域は自らが主役となり地域活性化を担う時代に入った。持続可能なまちづくりに際して住みよい環境づくりと共にこれを担う住民と訪問者の交流が必要といわれる。まちづくり論では、地域の自然・歴史文化・産業・生活等の資源発掘（宝さがし）にはじまり、これを地域内外連携と開発（宝の商品開発）をおこない、地域内外に誇れるブランドづくり（お宝発信）の流れを展開する。またまちづくりは、観光地経営と不可分のため、マーケティングと地域連携のマネージメントを前提にして持続可能なまちづくり組織の循環と再投資の方程式をみていく。</p> <p>①まちづくりの時代要請とマーケティングとマネージメントを学び、②地域ブランディング、③まちづくりのなかでコミュニテイ、ツーリズム、環境保全、との関係などを授業の重要項目としてとりあげる。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>多くのまちづくり事例から共通項を設定し、マーケティングに基づくまちづくり理論を抽出する。まちづくりの課題設定から宝さがし・宝磨き・宝を伝え興す地域創造型観光のマネージメントを習得することを目標にする。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>宝さがし・つなぐ・みがく・つたえる・誇る</p> <p>第1回：ガイダンス（エコミュージアム）</p> <p>第2回：地域資源と宝さがし（観光とまちづくり合体）</p> <p>第3回：見えない宝探し、創り出す</p> <p>第4回：地域資源つなぐ宝みがき①</p> <p>第5回：地域資源つなぐ宝みがき②</p> <p>第6回：観光のマーケティング</p> <p>第7回：振り返り（中間テスト）</p> <p>第8回：宝伝えるイベント・プロモーション</p> <p>第9回：顧客と地域人材のマーケティング 顧客満足 x 住民満足</p> <p>第10回：着地型観光商品の造成と活用 観光商品化のマーケティング</p> <p>第11回：まちづくり運営のプラットフォーム 環境分析、課題分析</p> <p>第12回：地域活性化まちづくりの3要素 己を知り競合を知り顧客を知る</p> <p>第13回：海外モデル、ランドリー、フロリダ、ジェイコブズ</p> <p>第14回：課題発表 地域創造型まちづくり案のプレゼンテーション</p> <p>第15回：まとめ</p>				
<b>【履修条件】</b>				
<p>特にないが、学生の住むまちの観光まちづくりに深い関心をもって授業に臨んでもらいたい。テキストを持参すること</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>①本講義では、地方まちづくり事例を中心に概説する。毎回事例の予習、復習をすすめる。</p> <p>②予習、復習のポイントを授業でアドバイスする。事例の背景、目的、地域の関わり等</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
講義中の小レポート提出、30%、期末試験による評価40%、中間テスト30%				
<b>【テキスト】</b>				
『地域創造のための観光マネージメント』NPO法人観光推進力ネットワーク関西（2016）学芸出版社				
<b>【参考文献】</b>				
『観光まちづくり』西村幸夫（2009）学芸出版社				
『まちづくりと創造都市2』塩沢由典・小長谷一之（2009）晃洋書房【テキスト】				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ライティング I	後期	1単位	サウスウィック プライアン (2306研究室) E-mail: b-southwick@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ビギナーレベルの学生が、日常の出来事や時事問題に関して、自分の意見を英語で書ける技術を習得する授業である。ことに、新聞やインターネットの記事から英語および日本語で得た情報を理解し、分析したうえでライティングを練習する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>基本的なライティング技術を高めること。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス・Ungraded Writing Assessment  第2回：Writing Assignment 1  第3回：Assignment 2  第4回：Assignment 3  第5回：Short Test; Assignment 4  第6回：Assignment 5  第7回：Assignment 6; Mid-term Test Review  第8回：Mid-term Test; Assignment 7  第9回：Assignment 8  第10回：Assignment 9  第11回：Short test; Assignment 10  第12回：Assignment 11  第13回：Assignment 12  第14回：Assignment 13  第15回：まとめ</p>				
<b>【履修条件】</b>				
<p>特になし</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられ課題に積極的に対応すること</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<p>積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する。</p>				
<b>【テキスト】</b>				
<p>随時指示する</p>				
<b>【参考文献】</b>				
<p>和英・英字辞典</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ライティングⅡ	後期	2単位	<small>いのうえ のぶえ</small> 井上 信恵(2301研究室)、ティモシー フィニー E-mail : n-inoue@duck.niigataum.ac.jp thefinjp@icloud.com	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修 対象入学年度		必修	2
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>電子メールやソーシャルネットワーキングサービスなどの普及によって英語による発信が容易となった今、英語のいわゆる四技能の中でも、特にライティングスキルの重要性は高まっているといえよう。このような背景を踏まえ、本講義では身近なテーマに関するライティング課題に取り組み、コミュニケーションに必要な英語のライティングスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>※クラスAについては、英語のみで指導を行う。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>実践的な英文ライティングスキルを身につけ、趣味や経験、将来の夢など身近なテーマについて、英語で表現できるようになる。</p>				
<b>【授業計画】</b> ※シラバス記載のユニット及びページはテキストと対応。原則として下線のユニットに焦点を当てる。				
第1回：Chapter 1 Self-Introduction; Unit 1 - ガイダンス				
第2回：Unit 2				
第3回：Unit 3				
第4回：Chapter 2 Pastimes and Hobbies; Unit 4				
第5回：Unit 5				
第6回：Unit 6				
第7回：ライティング課題Ⅰの準備・発表				
第8回：Chapter 3 High School Days; Unit 7				
第9回：Unit 8				
第10回：Unit 9				
第11回：Chapter 4 Weekends; Unit 11				
第12回：Unit 11				
第13回：Unit 12				
第14回：ライティング課題Ⅱの準備・発表、レビュー				
第15回：Test Preparation				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>授業内で準備・発表するライティング課題については制限時間があるため、事前にドラフトを自身で準備した上で授業に臨むことが強く勧められる。</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<p>ライティング課題Ⅰ 30%（内容20%、発表10%）、ライティングⅡ 課題30%（内容20%、発表10%）、期末試験40%</p>				
<b>【テキスト】</b>				
<p>&lt;&lt;クラスA&gt;&gt;授業開始時に指示する。          &lt;&lt;クラスB&gt;&gt;Write About Yourself, Miyata, Manabu (SANSHUSHA)</p>				
<b>【参考文献】</b>				
特になし。				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
リーディング I	前期	1単位	サウスウィック プライアン (2306研究室) E-mail: b-southwick@duck.niigataum.ac.jp	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	1
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ビギナーレベルの学生が、グローバル化が進展する今日社会から求められる基本的なリーディング技術を習得授業である。経済・ビジネスや世界の動きなどについての英字新聞や英語雑誌の記事、そしてインターネットの資料を読むために必要な語彙を増やし、速読や精読を組み合わせることで多様な文献に対応できるように進める。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
基本的なリーディング技術を高めること。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：Reading 1 第3回：Reading 2 第4回：Reading 3 第5回：Short Test; Reading 4 第6回：Reading 5 第7回：Reading 6 第8回：Reading 7 第9回：Mid-term Test 第10回：Reading 8 第11回：Reading 9 第12回：Reading 10 第13回：Short test; Reading 11 第14回：Reading 12 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
授業に遅れず出席し宿題をきちんと完成して提出すること、自習学習をすること、筆記用具とテキスト等を用意すること、授業中に与えられ課題に積極的に対応すること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
積極性、課題提出、テストの結果を総合的に評価する				
<b>【テキスト】</b>				
随時指示する。				
<b>【参考文献】</b>				
和英・英字辞典				



科目名	開講期	単位数	担当教員	
ライティングⅡ	後期	1単位	<small>いのうえ のぶえ</small> 井上 信恵(2301研究室)、ティモシー フィニー E-mail : n-inoue@duck.niigataum.ac.jp thefinjp@icloud.com	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎必修		必修	2
対象入学年度				
平成28年度			平成29年度	
○			○	
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>《クラスA》グローバル人材育成の必要性が叫ばれる昨今、外資系企業や英語を使用する企業だけではなく、多くの企業が採用時にTOEICのスコアを参考にしているといわれている。本講義では、限られた時間内に多くの問題を効率的に解くことが求められ、比較的スコアに繋がりにくいとされるリーディングセクションに焦点を当て、TOEICのスコアアップをねらうものとする。</p> <p>《クラスB》グローバル人材育成の必要性が叫ばれる昨今、外資系企業や英語を使用する企業だけではなく、多くの企業が採用時にTOEICのスコアを参考にしているといわれている。本講義では、限られた時間内に多くの問題を効率的に解くことが求められる長文問題に焦点を当て、TOEICの出題形式に慣れると共に、英文の内容を素早く理解できることを目指す。また、ネイティブが日常的によく使用するフレーズも併せて学ぶ。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>《クラスA》英文速読力を高め、リーディングセクションの設問を早く解けるようになる。</p> <p>《クラスB》英文の内容を素早く理解し、長文問題の設問を早く解けるようになる。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
			※シラバス記載のページはテキストと対応	
《クラスA》			《クラスB》	
第1回：ガイダンス（合同クラス）、 pp. 96-99 (Day 21)			第1回：ガイダンス（合同クラス）、 VOA Lesson 1, pp. 96-97 (Day 21)	
第2回：pp. 40-43 (Day 7)			第2回：VOA Lesson 2, pp. 98-99 (Day 21)	
第3回：pp. 100-103 (Day 22)			第3回：VOA Lesson 3, pp. 100-101 (Day 22)	
第4回：pp. 44-47 (Day 8)			第4回：VOA Lesson 4, pp. 102-103 (Day 22)	
第5回：中間試験前レビュー (pp. 43, 47, 101-103)、 pp. 104-107 (Day 23)			第5回：pp. 104-105 (Day 23)、 中間試験前レビュー (pp. 100-103)	
第6回：pp. 48-51 (Day 9)			第6回：pp. 106-107 (Day 23)	
第7回：中間試験			第7回：中間試験	
第8回：pp. 108-111 (Day 24)			第8回：VOA Lesson 5, pp. 108-109 (Day 24)	
第9回：pp. 52-55 (Day 10)			第9回：VOA Lesson 5, pp. 110-111 (Day 24)	
第10回：英語プレゼンテーションの準備(p. 15) (合同クラス)			第10回：英語プレゼンテーションの準備(p. 15) (合同クラス)	
第11回：pp. 116-119 (Day 26)			第11回：VOA Lesson 6, p. 112	
第12回：pp. 120-123 (Day 27)			第12回：VOA Lesson 6, p. 112	
第13回：英語プレゼンテーションの発表（合同クラス）			第13回：英語プレゼンテーションの発表（合同クラス）	
第14回：pp. 124-127 (Day 28)、pp. 56-57 (Day 11)			第14回：VOA Lesson 6, pp. 113-115	
第15回：まとめ、期末試験前レビュー (pp. 58-59, 112-115, 126-127)			第15回：まとめ、期末試験前レビュー (VOA Lesson 1~6, pp. 112-115)	
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
英語プレゼンテーションが成績評価対象となるため、そのための準備が必要となる。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
中間試験20%、英語プレゼンテーション20%、期末試験60%				
<b>【テキスト】</b>				
早川 幸治(著)『TOEIC(R)テスト書き込みドリル [全パート入門編] 新装版』(桐原書店)				
<b>【参考文献】</b>				
神崎 正哉/Daniel Warriner(著)『TOEIC LISTENING AND READING TEST 標準模試1』(IBCパブリッシング)				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
旅行業法	前期	2単位	おぼた ひろまさ 小畑 博正 (2304研究室) E-mail: h-obata@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>「観光立国推進基本法」が2007年に施行され、2008年観光庁が国土交通省の外局として設立されました。日本のこれからを支える基幹産業として観光に注目が集まり、様々な施策が展開されています。観光を盛んに、観光事業の健全な発展を図る上で、国や地方行政の政策も極めて広範囲で多岐にわたり、その活動や政策は法令に基づいてなされています。</p> <p>授業では、観光に関する法令の体系を、旅行業法を中心に、その周辺法令に至るまで、政策・諸制度と併せて概観します。</p> <p>法規を単に覚えるだけではなく、その法規から見えてくる様々な問題や課題とも向き合い、理解を深めることによって、難しく感じる法規も理解しやすくなります。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
旅行業法を中心に、各分野に適用される個別法令に基本的な知識の習得と仕組みの理解を深めることを目標とします。				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：旅行業法①旅行業の定義</p> <p>第3回：旅行業法②登録制度</p> <p>第4回：旅行業法の運用具体例</p> <p>第5回：旅行業約款①旅行業の種類と旅行の種類～商品流通の仕組み～</p> <p>第6回：旅行業約款②契約の締結と変更と解除</p> <p>第7回：旅行業約款③旅程保証制度</p> <p>第8回：旅行業約款④旅程管理と特別補償</p> <p>第9回：運送・宿泊約款</p> <p>第10回：中間まとめと理解度テスト</p> <p>第11回：観光に関する基本的な法制度</p> <p>第12回：観光に関する税・助成制度</p> <p>第13回：観光基本法と観光立国推進基本法</p> <p>第14回：関連法制度（宿泊、交通）</p> <p>第15回：まとめ 期末まとめと理解度テスト</p>				
<b>【履修条件】</b>				
旅行業法と関連法規に興味を持ち、具体的に課題探求ができ、法規の趣旨を理解できる学生				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
現実の旅行業と照らし合わせながら、具体的な運用案件と併せて授業を進めるので、日々、業界動向やトピックスの情報収集を積極的に行うこと				
<b>【成績評価の方法】</b>				
理解度テスト2回（中間と期末）70%、毎回授業の最後に授業内容のミニ理解度テストを実施30%				
<b>【テキスト】</b>				
旅行業法及びこれに基づく命令 2,670円 旅行業約款・運送宿泊約款 2,670円 国内運賃・料金 2,460円 国内観光資源 2,360円 いずれもJTB総合研究所				
<b>【参考文献】</b>				
観光政策・制度入門 寺前秀一/ぎょうせい 2,800円				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
旅行実務演習	前期	2単位	<small>おぼた ひろまさ</small> 小畑 博正 (2304研究室) E-mail: h-obata@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>旅行、航空、宿泊などを含む観光産業は、我が国において21世紀のリーディング産業へ飛躍することが期待されています。中でも旅行業はその中心に位置し、すべての観光産業を集約できる機能を有し、今後もその役割は限りない可能性に満ちています。この授業では、旅行ビジネスである旅行業とはいかなるものであるか、宿泊や交通、観光施設までの関連ビジネスとどう関わって成立しているかを学び、後半は同時に国家資格である国内旅行業取扱管理者資格取得に対応した関連法規なども並行して理解し、実践的な旅行ビジネスの基礎知識を理解すると共に、資格取得により即戦力の旅行実務者を養成します。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>旅行業法令の内容を理解し、国家資格の合格ラインを超える力を養います。併せて旅行業の現場とは何かを理解し、就職活動の指針となるような実務教育も目標とします。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：旅行業の歴史 第3回：旅行業の仕組み 第4回：国内旅行商品 第5回：海外旅行の形態 第6回：海外旅行商品 第7回：団体旅行と教育旅行 第8回：MICEとインバウンド旅行 第9回：メディア展開とEコマースのこれから 第10回：中間まとめ（旅行会社の業務と業界研究） 第11回：国家試験の概要とガイダンス 第12回：国内旅行業取扱管理者試験対策（登録制度・営業保証金・旅行業取扱管理者） 第13回：国内旅行業取扱管理者試験対策（取引の公正・企画旅行・禁止事項罰則） 第14回：国内旅行業取扱管理者試験対策まとめと理解度テスト 第15回：まとめ 期末まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
旅行業界に興味を持ち、具体的に課題探求と理解できる学生				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
現実の旅行業と照らし合わせながら、具体的運用案件と併せて授業を進めるので、日々、業界動向やトピックスの情報収集を積極的に行うこと				
<b>【成績評価の方法】</b>				
期末まとめレポート70% 試験対策理解度テスト1回（第14回）15% 第12回～14回は毎回授業の最後に授業内容のミニ理解度テストを実施15%				
<b>【テキスト】</b>				
旅行実務入門 JTB総合研究所 1,950円				
<b>【参考文献】</b>				
必要に応じて適宜プリントを配布				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
旅行ビジネス論	前期	2単位	<small>おぼた ひろまさ</small> 小畑 博正 (2304研究室) E-mail: h-obata@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	コース専門基本科目		選択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>我が国において、21世紀の基幹産業になるという認識のもと、政府は新成長戦略に「観光立国・地域活性化戦略」を柱に、観光立国の推進、地域資源の活用による地方都市の再生、成長の牽引役としての大都市の再生を目指しています。そのような中、観光産業の発展に大きな期待が寄せられ、地域を支える観光産業を育て、新しい雇用と需要を生み出すことが求められています。</p> <p>講義では観光産業のこれまでの日本の中核的立場で発展してきた旅行業に焦点を当てながら、これまでと、これからの観光ビジネスについて、理解を深めると共に、旅行業の周辺にある関連産業（宿泊業、運輸業、テーマパーク等）と、これからの地方を担うであろうニューツーリズムと呼ばれている新たな旅行ビジネスに至るまで、幅広く、より実践的に課題を探求していくことを目的とします。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
<p>旅行ビジネスを構成しているそれぞれの産業について検証し、理解を深めるとともに、それらを経営していく上での戦略と一緒に考える授業にし、旅行以外の分野でも必要とされる戦略・政策をマネジメント出来る力を身につけることを目標とします。</p>				
<b>【授業計画】</b>				
<p>第1回：ガイダンス 旅行業って何？            第2回：観光の概念と意義 ～観光とは何か、ビジネスとは何か～            第3回：旅行ビジネスのはじまり～旅行の歴史とこれから～            第4回：旅行ビジネスの現状とその経済効果～国内旅行、海外旅行、訪日外国人旅行～            第5回：観光行政（政策と規制）～観光立国宣言から観光庁設立～            第6回：旅行ビジネスの具体的戦略①旅行ビジネスの構図            第7回：旅行ビジネスの具体的戦略②旅行商品および販売戦略            第8回：旅行ビジネスの具体的戦略③旅行業界と新規参入による構造変化の時代            第9回：旅行ビジネスの具体的戦略④インバウンドツーリズム            第10回：観光関連産業①航空産業            第11回：観光関連産業②ホテル・旅館産業            第12回：観光関連産業③鉄道・バス・クルーズ            第13回：旅行ビジネスとメディア戦略            第14回：新たな観光産業～旅行ビジネスにおけるテーマパークとニューツーリズム～            第15回：まとめ これからの日本の旅行ビジネス総論</p>				
<b>【履修条件】</b>				
<p>旅行ビジネスと観光関連産業に興味を持ち、具体的に実践的な課題探求ができ、戦略・政策のマネジメントを理解できる学生</p>				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
<p>現実の旅行業からの研究テーマをもとに授業を進めるので、日々、業界動向やトピックスの情報収集を積極的に行うこと</p>				
<b>【成績評価の方法】</b>				
<p>レポート2回（中間と期末）70%、授業中の積極的議論参加および発言30%</p>				
<b>【テキスト】</b>				
<p>旅行業概論 松園俊志 森下晶美 同友館            その他資料、ビデオなどの視聴覚教材も使用します。</p>				
<b>【参考文献】</b>				
<p>観光ビジネス論 谷口知司/ミネルヴァ書房 2,800円</p>				

科目名	開講期	単位数	担当教員		
レジャー&アウトドア実習Ⅰ	夏季・冬季	夏季・冬季 各2単位	<small>すぎうら ぜんじろう</small> 杉浦 善次郎 (404研究室) E-mail: sugiura@duck.niigataum.ac.jp		
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次	
観光経営学科	一般教養科目		選 択	1	
対象入学年度					
平成28年度			平成29年度		
○			○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>レジャー活動として幅広い年代に親しまれているアウトドアスポーツを体験し、技能や知識を習得するとともに、健康増進や生き甲斐に繋がる可能性を理解し、自ら企画運営できる能力の習得を目指す。</p> <p>夏季はキャンプ及び水辺活動を、冬季はスキー・スノーボードを実施する。なお、夏季のみ、冬季のみの履修も可能である。</p> <p>本科目は、繰返し履修することが可能であり、修得単位は卒業単位に加算される。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>アウトドアスポーツの体験を通じて、技術や知識を獲得する。また、地域資源を活用したスポーツ・ツーリズムについて理解できるようになる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
夏季			冬季		
ガイダンス(1時間) 野外活動の基礎理論講義(1時間) 安全管理の講義(1時間) 現地実習(2泊3日) みなかみ 野外炊事 オリエンテーリング・ウォークラリー 工作 ラフティング及びキャニオニングもしくはカヌー パラグライダー フィールドゲーム			ガイダンス(1時間) 事前講習(1時間) 現地実習(3泊4日) 志賀高原 スキーもしくはスノーボード実技及び ビデオクリニック		
<b>【履修条件】</b>					
特になし					
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>					
<p>実習費が必要である。</p> <p>活動に適した服装や準備する用具についての詳細はガイダンスで説明する。</p>					
<b>【成績評価の方法】</b>					
授業中の運動量及び参加態度25%、技能50%、知識(レポート)25%。					
<b>【テキスト】</b>					
なし					
<b>【参考文献】</b>					
なし					

科目名	開講期	単位数	担当教員	
レジャー産業論	後期	2単位	バロリ プレンディ (2313研究室) E-mail : b-barolli@duck.niigataum.ac.jp	
学科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	専門基礎		必修	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>レジャー産業 (leisure industry) は人々が余暇を楽しむための手段、用具を、施設、サービス等を提供する産業である。観光や行楽、スポーツ、娯楽、趣味・創作、映画、演劇、音楽競馬、ゴルフ等々の分野が含まれている。近年、その市場は著しく拡大している。また、その関連分野も伸びている。</p> <p>本講義では、レジャー産業を構成する部門とその動向についての基礎的な知識を習得する。その上、個別分野の歴史、業界の概要、需要の動向、企業の在り方、そして今後の展望や課題などについて詳細に学習する。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
レジャー産業が社会・経済、余暇環境などへ与える影響を理解させ、その歩みやそれを構成する部門の現状と動向を把握させること。				
<b>【授業計画】</b>				
第1回：ガイダンス 第2回：レジャー産業とは 第3回：レジャー産業の役割 第4回：レジャー産業の歴史 第5回：レジャー産業の特性 第6回：レジャー産業の分類 第7回：レジャー産業の発展 第8回：リリース型レジャー 第9回：レクリエーション型レジャー 第10回：自己啓発型レジャー 第11回：地域を活性化させるレジャー産業の事例1 第12回：地域を活性化させるレジャー産業の事例2 第13回：レジャー産業の課題 第14回：レジャー産業の将来像 第15回：まとめ				
<b>【履修条件】</b>				
原則として、一年次の新潟県の観光と観光経営Ⅰ、そして二年次の観光政策を受講した学生が対象となる。				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
「○○新聞の△△欄は、授業に関係の深い記事が掲載されるので、目を通しておくとよいでしょう。」 「○○センターには関連する最新情報が掲示されています。」などの、効果的な学習上の助言を行う。積極的に対応してもらいたいと思います。				
<b>【成績評価の方法】</b>				
課題レポート30% (各レポート15%×2回、期末試験50%、受講態度 20%)				
<b>【テキスト】</b>				
その都度資料を配布します				
<b>【参考文献】</b>				
林 清『観光産業論 (観光学全集 第6巻)』、原書房、2015/3/26 公益財団法人 日本生産性本部『レジャー白書2016 一少子化時代のキッズレジャー』、生産性出版、2016/8/10				

科目名	開講期	単位数	担当教員	
ロシア語Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ：前期 Ⅱ：後期	Ⅰ：1単位 Ⅱ：1単位	イワン ツェリッシュェフ（2310研究室） E-mail：Poisktseli@gmail.com	
学 科	科目区分		必修・選択の別	配当年次
観光経営学科	外国語科目		選 択	2
対象入学年度				
平成28年度		平成29年度		
○		○		
※所属する学科の科目であれば、表示されている配当年次より上級年次の学生も履修可能です。				
<b>【授業の概要】</b>				
<p>ビギナーのための基礎的なロシア語を教えます。アルファベットから入って、文法や簡単な会話を学んでもらう。名詞、形容詞、動詞、代名詞などの単語とその使い方を覚えてもらう。結局、受講生は簡単な文章を作成すること、簡単なストーリーを読むこと、そして簡単なコミュニケーションをすることができるようになる。</p>				
<b>【到達目標】</b>				
ロシア語の基礎的な知識と読む、書く、コミュニケーションをする能力を養成すること。				
<b>【授業計画】</b>				
前期(ロシア語Ⅰ)		後期(ロシア語Ⅱ)		
第1回：アルファベット。文字と発音		第1回：復習		
第2回：単語、基本的な文		第2回：動詞の未来形		
第3回：文章形式、単語と発音		第3回：文章形式、会話		
第4回：文章形式。文字と発音		第4回：名詞の変化(「格」)、会話		
第5回：名詞の性、単数形と複数形		第5回：動詞の現在、過去の変化		
第6回：名詞の変化(「格」)、会話		第6回：定動詞と不定動詞		
第7回：名詞の変化(「格」)、会話		第7回：形容詞の用法、会話		
第8回：形容詞、動詞、会話		第8回：名詞の複数の変化(「格」)、会話		
第9回：形容詞、動詞、数詞、会話		第9回：代名詞の変化		
第10回：代名詞、接続詞、会話		第10回：動詞・形容詞の練習、会話		
第11回：前置詞、会話		第11回：形容分詞		
第12回：文章形式、会話		第12回：ストーリーの作成		
第13回：動詞の現在変化		第13回：口頭発表		
第14回：動詞の過去形と未来形		第14回：ロシア語での議論		
第15回：文章形式、会話、自己紹介		第15回：まとめ		
<b>【履修条件】</b>				
特になし				
<b>【学習上の留意点および準備等】</b>				
与えられた課題に積極的に対応すること				
<b>【成績評価の方法】</b>				
テスト、出欠、やる気、授業中の課題への対応				
<b>【テキスト】</b>				
西中村 浩、朝妻 真理子 「ロシア語をはじめよう」 朝日出版社 2017				
<b>【参考文献】</b>				
特になし				